

# 美術年報

2007



徳島県美術家協会

# 目 次

はじめに .....	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志 .....	1	
徳島県美術家協会規約 .....		4	
平成17年度事業報告 .....		5	
役員名簿(平成18年度) .....		8	
徳島県美術展開催運営要項 .....		14	
第61回県展記録 .....		18	
第61回県美術展出品・入選等状況 .....		27	
徳島県美術展審査員一覧 .....		28	
<b>各部記録(平成18年度)</b>			
・日本画部 .....	部会長 西野 和男 .....	34	
・洋画部 .....	部会長 榊田 務 .....	36	
・写真部 .....	部会長 櫛淵 魏 .....	45	
・彫刻部 .....	部会長 松永 勉 .....	50	
・美術工芸部 .....	部会長 山上 馨 .....	54	
・書道部 .....	部会長 上田 溪水 .....	59	
・デザイン部 .....	部会長 坂本三千一 .....	64	
第61回県美術展審査評 .....		68	
<b>会員名簿</b>			
・日本画部 .....	76	・美術工芸部 .....	85
・洋画部 .....	77	・書道部 .....	86
・写真部 .....	81	・デザイン部 .....	98
・彫刻部 .....	84		
第61回徳島県美術展(県展)公募規定 .....			99
第61回県美術展 特別・招待・無鑑査・賛助出品者名 .....			100

あとがき

## はじめに

徳島の芸術の祭典「第61回県美術展（県展）」は「第2回こども美術展（こども県展）」とともに10月4日から9日まで、「アスティとくしま」で開催された。昨年まで開催していた県郷土文化開館が改修中のため、はじめて「アスティとくしま」で開かれたが、毎日鑑賞者が詰めかけ芸術の秋を満喫した。これまで一期・二期と分けていたが、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの全7部門を統合し、各部門の入賞・入選作品と招待等作品、計1,016点を一堂に展示した。最終日の9日には表彰式を行い第61回展の幕を閉じた。

一方、こども県展も県内の小中学生から応募のあった絵画と書写の9,257点の中から入賞・入選作1,888点をドイツをテーマにした特別企画作品展とともに展示した。

なお、放美展は会場の関係で休展し、第15展は平成19年の開催とした。

第61回県展の審査員の概評を記してみることにする。日本画では確かな描写、大胆な色彩、徳島のもつ風土に思いをこめた作品もあり、バリエーションにあふれていた。絵というものは短所を直すのではなく、長所を伸ばしていけばいい、と言われたことを心深くとどめておくべきだ。洋画は誠実かつ充実した作品が多かった。しかし、新しい表現への独創性を全面に出す覇気が不足している印象を受けたのも事実だ、と言われたので個性を強調する意欲を見せていくことが大切だ。写真は特に上位の作品は技術的に優れていた上、思想もこめられておりレベルが高かった。さらに固有のメッセージを持つ作品を持つことを希望されていた。彫刻は材質に裏付けられた形状を自分なりにどう表現していくかが重要であると教えられた。美術工芸はレベルが非常に高く、造形的にも魅力ある作品が多く、選ぶのに苦労したと褒められた。書道は3名の審査員により行われたが、全体的に水準は高く、先人の書風をうまく自分のものに消化して創作していると感じられたと評価された。デザインは伝えたいメッセージが何なのかを解釈し、どれだけ明確に表現できているか、具体的なメッセージがストレートに伝えられているかが大切と教えていただいた。

協会とは直接関係はないが、日本文化デザイン会議が10月13日に開幕し県内4市町で、1,300人が参加した。各界の第一線で活躍するアーティストや文化人など約100人が多彩なイベントを繰り広げ、地域文化の新たな魅力を創造する「第28回日本文化デザイン会議06inとくしま」は意義深かった。



本年度の特記すべきことは彫刻家で徳島大学名誉教授の河崎良行さんが、県文化賞を受賞されたことである。長年にわたって意欲的に作品を発表し、県内外で彫刻の普及と発展に貢献したことが評価された。11月3日の表彰式で「作品を初めて発表したのが50年前、そんな節目の年に大きな賞をいただきとてもうれしい」と喜びを本人は語られていた。これからも彫刻の旅を続けるという河崎さんの前途が更に輝くことを期待してやまない。

3月14日から20日まで、徳島そごう画廊で三沢尚子水彩画展が開かれた。第1回展ということで2005年の1年間の新作展で好評であった。22日から26日まで峯幸子展が県立近代美術館ギャラリーで開催された。100号とか120号の大作も多く峯作品と十分に触れ合うことができ好感の持てる展覧会だった。彫刻部会長の松永勉さんのモニュメント作品が新年度から全国の中学校で使われる美術の副読本に掲載されることになった。国際彫刻展の入賞作品で「素材や作風が、独創的でユニーク」と出版社から評価された。

4月25日から5月1日まで大谷焼「元山窯」の田村栄一郎さんの初個展が、そごう美術画廊で開かれた。田村さんは大阪芸大在学中に父の功さんを亡くし、10代目として家業を継いでいる。京都の陶芸専門学校でも学び、県展でも特選・特別賞に選ばれた。家族の3人とイラストレーターの橋本シャーンさんも協力出品されていて、評価の高い個展であった。デザイン部委員の敷島のり子さんが第8回世界ポスター・トリエンナーレ・トヤマ2006で、第5回につづいて2回目の入選を果たした。山田和子さんが6月7日から12日まで日本橋高島屋で開催された第16回日工会展の一般の部で、七宝焼のオブジェ「風華」が日工会賞を受賞した。9月16日から21日まで、県女流美術家協会（岡多美子会長）の初めての東京展となる「INDIGO あいの風」が、東京銀座の銀座OS画廊で開催され、個性あふれる作品43点が展示され、東京の美術ファンの目を楽しませた。10月1日から11月24日まで、恒例の徳島彫刻集団（佐藤隆代表）の第44回野外彫刻展が徳島市中央公園で開催された。会員の作品24点に加え、彫刻集団の創始者で今年5月に死去した坂東文夫・元徳島大学教授の作品8点が特別展示され、半世紀以上も徳島の彫刻界をリードしてきた坂東さんの足跡に触れるとともに“徳島に独自の彫刻文化を根付かせよう”という坂東さんの意志を受け継いだ方々の新しい一歩を刻む展覧会となった。10月19日から22日まで県内の版画作家による徳島版画展第4回展が、県立近代美術館ギャラリーで開催された。57人の合同作品展で、今回は展示に加えて展覧会場の美術館でワークショップを開くほか、前後の時期に会員らが県内各所で個展を開催するなど多様な技法や表現が満喫できた。

さらに、河崎良行さんが「長野市野外彫刻賞」の歴代受賞作家33人を紹介す

る展覧会「ながのミュージアム33年の軌跡展」に金属作品「海峡の風景」を出品された。写真の森住博さんが徳島市からの訪問団の一員として、米国サギノ一市を訪れ、現地で徳島県内の祭りの風景を撮影した写真展を開催し大変な好評を得た。

今年もまた訃報のことはを記すこととなった。2月26日に県展招待作家で、人間的にも誠実温厚で、元県児童相談所長でもあった服部裕さんが永眠された。78才でした。5月2日に県内彫刻界をリードされていた坂東文夫さんが90才で死去された。坂東さんは62年に徳島彫刻集団を結成し代表を努めていた。65年には県文化賞を受賞された。徳島大学教授などを勤められ、後進の指導に尽力される功績など偉大な存在として、県彫刻界に永久にその名を残すことであろう。5月7日に写真家であり、徳住寺住職でもあった藤井梵さんが77才で死去された。日本リアリズム写真グループの会員で、戦後の日本のありようをレンズを通して鋭く見つめた社会派であった。二科展大賞、リアリズム写真グループ展奨励賞、県出版文化賞など輝かしい実力者で、人間的にも魅力があり惜しまれてならない。8月19日に永山隆二さんが89才で死去された。県展第1回からの出品者で各部門を通して最も古の作家であった。水彩画では関西でも有名作家で、晩年油彩画に転じていた。最後まで風景画でとおされた。県展の招待から洋画部会長、県美術家協会顧問となる。氏は性格的にも温和で一徹で純粋であった。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、徳島新聞社（県展）、そして美術家協会の皆様方、さらに中央展にまさるともおとらぬ厳選である県展に臆することなく挑戦される方々に、心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りいたして、はじめの言葉といたします。

平成 19 年 3 月

徳島県美術家協会会長

佐 野 比呂志

# 徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定
32.	7.	14	新規約制定
33.	4.	29	規約一部改正
42.	4.	23	〃
46.	4.	29	〃
47.	5.	29	〃
49.	8.	22	〃
52.	7.	23	〃
56.	5.	5	〃
58.	6.	5	〃
61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃
6.	6.	25	〃
10.	6.	27	〃

## 第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻  
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会  
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

## 第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長 副会長（2名）  
理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあつては3名、

31名以上の部にあつては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

## 第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

部会長・委員（部会員数の3割以内）  
部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

## 第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

## (参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（徳島公園内の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッチを選定（图案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～5名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道）のうえに商業美術（58年度からデザインに改称）が加わり7部組織となる。

# 平成17年度 事業報告

- (1) 総 会
- ◇平成17年 6月18日
  - ◇県郷土文化会館 5F第7会議室
  - ◇平成16年度事業報告及び決算報告
  - ◇監査報告・承認
  - ◇役員改選
  - ◇平成17年度事業計画及び予算審議
  - ◇その他
- (2) 第14回放美展
- ◇平成17年 5月4日(水)～5月8日(日)
  - 日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの  
690点展示
  - ◇受賞者表彰式 平成17年 5月8日(日) 県郷土文化会館
- (3) 第60回記念県美術展
- ◇第1期 平成17年11月12日(土)～20日(日)
  - 日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの579点  
展示
  - ◇第2期 平成17年11月22日(火)～29日(火)
  - 書道の406点展示
  - ◇第60回記念展受賞者表彰式 平成17年11月11日(金)
  - 阿波観光ホテル
  - ◇第60回記念展講演会 平成17年10月30日(日)
  - 講師 五木 寛之氏
- (4) 県展・放美展会議
- ◇第60回記念県展運営委員会・県展事務局員会議  
(17. 6. 14、17. 9. 15、18. 2. 15)
  - ◇第61回県展運営委員会 (18. 3. 1)
  - ◇第14回放美展運営委員会 (17. 4. 28)
- (5) 各部会行事
- ◇洋 画 部
  - 第20回記念洋画部会員展 (17. 5. 12～5. 15)
  - 県郷土文化会館
  - ◇写 真 部
  - 花・華・京都撮影会 (17. 6. 26)
  - ◇彫 刻 部
  - 部会展 (17. 4. 6～26)

阿波銀プラザ

◇デザイン部

部会展「県展・デザイン35年」 (17. 11. 16~20)

四国大学交流プラザ

- (6) 各種後援
- ◎第18回長玄書道会展 (17. 4. 1~3)
  - ◎退職記念 日下溪翠書画展 (17. 4. 1~4)
  - ◎第36回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (17. 4. 1~3)
  - ◎第68回書芸院展 (17. 4. 14~17)
  - ◎大貝久義個展「四季折々の思いで写真俳句展」 (17. 4. 15~5. 1)
  - ◎第6回ニッコールクラブ徳島支部写真展 (17. 4. 16~18)
  - ◎書道企画展とくしま「一字書」展 (17. 4. 29~6. 12)
  - ◎書道特別展「近代のかな書と近現代のかな書」展 (17. 4. 29~6. 12)
  - ◎第1回尚石会書展 (17. 4. 29~5. 1)
  - ◎第8回澄光会書展 (17. 5. 6~8)
  - ◎第17回“燎”4人展 (17. 5. 12~16)
  - ◎第50回成蹊書道会展 (17. 5. 20~22)
  - ◎徳島アート21 第3回展 (17. 6. 1~5)
  - ◎第28回「炎」作品展 (17. 6. 3~5)
  - ◎第28回八紅展 (17. 6. 16~19)
  - ◎第23回双愛会書作展 (17. 6. 17~19)
  - ◎第12回大耿会書作展 (17. 6. 17~19)
  - ◎第26回東光会徳島支部展 (17. 6. 24~26)
  - ◎第24回徳島平和美術展 (17. 6. 30~7. 3)
  - ◎第18回アトリエM作品展 (17. 6. 30~7. 4)
  - ◎傘壽記念 第3回長原舉聖書展 (17. 7. 8~11)
  - ◎第19回四国大学文学部書道文化学科教員展 (17. 7. 27~8. 1)
  - ◎徳島青澄 第1回翔和会かな書作展 (17. 7. 30~8. 1)
  - ◎第29回15人展 (17. 8. 1~5)
  - ◎第64回世代美術展 (17. 8. 4~7)
  - ◎新浜写真クラブ作品展「私風景」 (17. 8. 10~15)
  - ◎第19回徳島花を写す会写真展 (17. 8. 19~21)
  - ◎木谷弘・長尾弘久二人展：絵画・2つの響き (17. 9. 1~5)
  - ◎第35回記念直心会書展 (17. 9. 2~4)
  - ◎荒井天鶴 詞・書展 (17. 9. 8~11)
  - ◎第34回徳島雪心会書作展 (17. 9. 9~11)
  - ◎第45回写楽会写真展 (17. 9. 9~11)



- ◎第2回市場油絵会作品展 (17. 9. 14~18)
- ◎第37回石井美術の会作品展 (17. 9. 16~19)
- ◎第61回青美展 (17. 9. 16~19)
- ◎第4回一心会書展 (17. 9. 17~19)
- ◎第28回泉心会書作展 (17. 9. 23~25)
- ◎第11回徳島障害者芸術祭 エナジー2005 (17. 9. 26~29)
- ◎第50回記念書協人展 (17. 9. 28~10. 4)
- ◎第2回大貝久義個展「四季折々の思いで写真俳句展」 (17. 10. 1~16)
- ◎第5回書朋六人展 (17. 10. 7~10)
- ◎第9回旺美展 (17. 10. 20~26)
- ◎書道特別展「近代日中書法交流史を担った人々」展 (17. 10. 25~12. 4)
- ◎第17回睦月会書作展 (17. 10. 29~31)
- ◎退官記念 田村昇鶴書作展 (17. 11. 1~7)
- ◎第3回徳島版画展 プリントワーク2005 (17. 11. 2~6)
- ◎第20回藍美展 (17. 11. 3~6)
- ◎佐野辰夫写真展 徒遍路阿波路ゆく (17. 11. 16~19)
- ◎第35回芳藍書道展 (17. 11. 25~27)
- ◎吉野川市書人会作品展 (17. 11. 25~27)
- ◎第10回記念尚真書展 (17. 12. 2~5)
- ◎第20回記念正鋒会書作展 (17. 12. 9~11)
- ◎第34回歳末チャリティ作品・色紙即売展 (17. 12. 10~12)
- ◎第26回臨池書展 (17. 12. 17~18)
- ◎第11回六書会書展 (17. 12. 23~25)
- ◎第9回せせらぎ書展 (17. 12. 24~25)
- ◎第26回徳島文理大学書道部：墨彩展 (18. 1. 14~15)
- ◎第39回モダンアート徳島支部展 (18. 1. 26~30)
- ◎第11回退教協 悠美展 (18. 1. 27~29)
- ◎第37回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (18. 2. 27~19)
- ◎第31回四国大学文学部書道文化学科卒業制作展 (18. 2. 23~3. 1)
- ◎写真展「桜・桜・桜」 (18. 3. 1~6)
- ◎第40回書道研究 清潮書作記念展 (18. 3. 3~5)
- ◎第11回朱泥会展 (18. 3. 4~6)
- ◎第1回パルの会洋画展 (18. 3. 7~12)
- ◎退官記念 第12回東南光書作展 (18. 3. 9~12)
- ◎第26回書研社展 (18. 3. 10~12)
- ◎上杉大一写真展「私風景」 (18. 3. 10~12)

# 徳島県美術展開催運営要項

## 第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

## 第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

## 第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

### 〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員の推薦決定に関すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

### 〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。
- 6 広報PRに関すること。

7 その他県展開催の下準備に関すること。

#### 第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

#### 第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

(1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

(1) 特選を連続3回得たもの。

(2) 年間を問わず特選を4回得たもの。

(3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)

(4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

(1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(2) 各部の会長を永年勤めて実績があり、運営委員会の議を得た方。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

#### 第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

#### 第7条 (審査)

審査は公開により行う。

#### 第8条 (入選、入賞数)

1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞 (特選の中から1点)	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳島県議会議長賞	3	3以内	規定数
洋 画	3	徳島県教育長賞	6	5〃	〃
写 真	4	徳島市長賞	9	8〃	〃
彫 刻	1	徳島新聞社長賞	2	2〃	〃
美術工芸	2	四国放送社長賞	4	3〃	〃
書 道	8	徳島県美術家協会会長賞	14	13〃	〃
デザイン	2	徳島県知事賞	3	3〃	〃

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ変更し賞を贈ります。

- 2 入賞は1人1賞とする。

#### 第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県議会議長賞 1名
- 2 徳島県教育委員会教育長賞 1名
- 3 徳島市長賞 1名
- 4 徳島新聞社長賞 1名
- 5 四国放送社長賞 1名
- 6 徳島県美術家協会会長賞 1名
- 7 徳島県知事賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

#### 第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点3,500円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- |   |        |     |      |    |      |
|---|--------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2 | 高校生    | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

- |            |      |
|------------|------|
| 平成4年2月22日  | 一部改正 |
| 平成4年5月16日  | 一部改正 |
| 平成8年5月25日  | 一部改正 |
| 平成11年5月14日 | 一部改正 |
| 平成13年5月30日 | 一部改正 |
| 平成14年9月25日 | 一部改正 |
| 平成17年6月14日 | 一部改正 |
| 平成18年2月15日 | 一部改正 |

# 第61回県展記録

会期 平成18年10月4日(水)～9日(月・祝)  
会場 アスティとくしま

## 日本画

- 〔審査員〕 宮廻 正明
- 〔特別出品〕 長尾 弘子 西野 和男
- 〔招待〕 橋本 正弘 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 土井 洋子
- 〔無鑑査〕 中西 芳雄 日浦 猛史
- 〔特選〕 坂 容子 (徳島県議会議長賞)  
反田 卓
- 〔準特選〕 水田 貴子 石原 千鶴 梶浦 千端
- 〔奨励賞〕 平野 真里 岩脇 恵子 藤井 吉信
- 〔入選〕 三谷 浩三 有井 和子 福井 撰哉 米沢 稔 江上 豊  
中村 繁子 柳田 一子 三ツ本繁美 宮越 千佳 天羽 弘毅  
南 清子 谷口 竜麻 岡村 美幸 富田 達子 平野ひろみ  
大草 明子 大磯美帆子 國尾由美子 神田 直子 井村ひろみ  
出口 清治 田中 悦子 岸本 好美 西村美也子 五宝喜美子  
西岡 ちほ 鈴木 恵子 清水佳代子 石動 智子 泉 福美  
嘉見 貞子 知野 貴世

## 洋画

- 〔審査員〕 山本 文彦
- 〔特別出品〕 佐野比呂志 榊田 務
- 〔招待〕 清水 巫悞 楠瀬 等 露口 敏幸 長尾 弘久
- 〔賛助出品〕 岡 多美子 柏木 雅雄 河田 安市 黒崎 志郎 後藤田仁一  
松川 寛 岡田 守 中辻奈美枝



〔無鑑査〕	西川 周三	越久 高照				
〔遺作〕	永山 隆二					
〔特選〕	二條 均	(徳島県教育委員会教育長賞)				
	西川 敬子	瀧川 勝雄				
〔準特選〕	南城ミツ子	玉田 秀子	宮田 京子	西村 聡子	川中比沙子	
	阿部 昌子					
〔奨励賞〕	妹尾 真澄	曾我部秀子	松尾 実	野口 暁子	藤井 博之	
〔入選〕	川田 績	日岡 富子	日野 邦恵	村上 富子	天野 敏康	
	福良 哲子	野上 恵子	森内 明子	高橋 真理	福田 晶	
	近藤 克子	岡本 夏奈	南 清子	原田 静花	林 文子	
	島村 英之	美浪 恵利	北 美智子	大塚 政孜	住友千安紀	
	中西 葵	前橋 巖	青木 幸子	西 富美	立花 悟	
	麻植 尊正	三谷多美子	前川フキ子	東原 綺子	伊藤 紀子	
	山内 雅文	和田 寿子	藤井 文明	秦 克之	横石 和子	
	木下 和江	仁木 英子	山村ひろ子	横手 義人	富岡 晴恵	
	西川 照美	佐々木公子	増田 政春	下内 一弘	三谷ミヤ子	
	川原 禮子	藤崎 恭子	田中シゲミ	為実美恵子	曾我部清美	
	山口 明美	佐藤 嘉子	加賀谷愛美	富田 君子	真鍋たえ子	
	土橋 正子	東 紀美子	岡本 汐加	中島 洋子	谷上 聡志	
	答島 久子	米沢 博	大久保佐智子	田渕 浜子	林 康太郎	
	小笠原秋子	金岡 義和	加川由紀子	林 敏雄	三木 洋子	
	林 静代	笹田 義宏	田中 康子	鈴木 敬子	大西 道夫	
	河本多恵子	阿部佐代子	竹内 れい	日出美佐江	住友 義彦	
	岡本 英見	堀江 幸子	尾西 敬子	松浦 英子	伊原 妙子	
	長尾賀代子	岡田 典子	丸関 朋子	佐藤 敬子	野村 雅子	
	片山美代子	割石 雄三	馬渕 尚子	新藤佐代子	住友富美子	
	古川 香織	吉村 朋恵	重清 政章	佐藤 友美	尾田 稔子	
	板東 徹	岸本 花子	岡田 理沙	西崎 志帆	浅山 久子	
	伊勢 浩章	中本真由美	島上 二郎	奈須 善彦	川上 晴美	
	井内美智代	島田美奈子	山瀬 稔	野口 義仁	結城 栄子	
	丸本みずほ	山田 智千	藤本 友香	鎌田まゆみ	大西 文代	
	中村 由春	松原 恵子				

# 写 真

- 〔審査員〕 江成 常夫
- 〔特別出品〕 西條 征二 櫛淵 魏
- 〔招待〕 増田 清次 井上 光雄 木田 英之 勝西 雅夫 武内 亨  
 笹田 敏雄 三好 和義 上野 照文 森 賢一 橋本 圭祐  
 安長 剛 前浦 芳久 荒井 賢治 林 敏彦 多田 晴美  
 古井 謙吉 中野 建吉 井藤 光章 増田 壽 柳本 正  
 大和 健司 船越 正文
- 〔無鑑査〕 井上 翔 久保 英樹 岩崎 英昭 中川 定典 田村 泰弘  
 堀淵 完治 関口つとむ
- 〔遺作〕 藤井 梵
- 〔特選〕 平野 史子 (徳島市長賞)  
 郡 利明 櫛淵 紳哉 国見 良幸
- 〔準特選〕 木下 昇 大津 勝治 佐野 和史 播 博文 一宮 由子  
 阿部 啓三 野藤 敏美 松原 玲子 佐治 孝
- 〔奨励賞〕 中山 良男 堀口 幸男 中垣 節 櫛谷 文次 清水 宗保  
 川真田慶治 田村 一郎 石本 隆二
- 〔入選〕 勝瀬 彪 三木 晴夫 野藤みきよ 松田 昇 志摩 育美  
 富永 幸子 鴻野 孝 佐野 辰夫 守中 和代 栗田ふさえ  
 久我 千鶴 吉岡 伸夫 伊達 照子 横山 勤一 浜田佳津子  
 原田 武二 二階 博司 田中 義孝 吉村 定雄 臣守 澄江  
 四宮 正恵 喜多 昌弘 福原 敏雄 吉村 敏嗣 林 好一  
 岡久 吉徳 多田 康文 山下 助信 河田 清 中尾 一元  
 根ヶ山 治 谷 賢太郎 阿部 房恵 姫田 慎治 大塚 尚  
 横手 章子 武林 恭史 板東 喜雄 岸上 俊博 土肥 重樹  
 笠井 孝純 岸田 知久 榎本 悟 原内 繁雄 石川 徹雄  
 高橋 弘 神野 太三 新居 丈市 井上 秀人 矢部 弘子  
 八村 澄枝 小笠原弘明 柳川 信子 内藤 晃 富岡佳代子  
 久保 祐一 増田 一郎 多川 静守 松尾 良子 西川 敬子  
 西野 倫子 正見 晃章 住友 登 宮本 利光 佐々木敏幸  
 池添 秀信 高野 作男 土橋 成行 渡辺 幸 三木 啓治  
 福原 和代 佐藤 進 山田 卓 村岡 洋一 竹谷 政登

一宮 康人	中川 健次	川西 明雄	多田 進	富加見美枝
田中 伸廣	森住 孝義	上杉 大一	宮本 文男	福井 純子
藤田 羔爾	郡 訓子	岡田 佳子	松家 安信	中野 久世
住友 武	板東 律雄	福永 豊	野口 道子	新開 修
村雲 清郷	辺見 博子	賀川 泰広	武地 雅	岡村 清
堤 信寿	山川 光磨	秋野 昌子	森内 昭男	四宮 清文
林 広司	宮本 幸治	森住 博	山口 喜市	眞田 幸隆
香川 泰	米塚 稔	森崎 敦子	橋本 勝	氏師 敏晴
原田 宏	山口 正明	浜田 茄代子	安丸 弘二	谷中美智子
辻 絹子	内藤クニエ	下山 久男	増谷 好子	笠井 房子
竹内 好文	山本 雅敏	梅本 貞範	森住 啓	坂東 明利
大西 啓子	野口 佳一	稲垣 喜修	井上 憲治	

## 彫 刻

〔審査員〕 鈴木 久雄

〔特別出品〕 河崎 良行

〔招待〕 佐藤 隆 大津 文昭 濱口 恵 井下 俊作 鎌田 邦宏  
松永 勉

〔贊助出品〕 長岡 強

〔無鑑査〕 上月 佳代

〔特選〕 居上 真人 (徳島新聞社長賞)

〔準特選〕 木村 大志 米田 陽一

〔奨励賞〕 高丸 公相 東 光司

〔入選〕 武田亜希子 山橋大二郎 二宮 治夫 三原 敏文 大西 葵  
加藤 由恵 加藤美津子 安芸 淳二 市川 友貴

## 美術工芸

〔審査員〕 島田 文鶴

〔特別出品〕 山上 馨

〔招待〕 高橋 勇 七條猪三郎 多智花佐代子 松下 雄介 松下 慶一

森 賢一 橋 惠 犬伏 絢

〔贊助出品〕 村上 正典 中川 存

〔無 鑑 査〕 森 明治

〔特 選〕 里見 正威 (四国放送社長賞)  
加藤 伴江

〔準 特 選〕 美浪 文 斎藤 和彦 岡部 育子 太田 裕子

〔奨 励 賞〕 高木喜代香 吉田 敏明 谷口 治

〔入 選〕 四十宮年代 大貝 貞雄② 佐藤 康子 石川多美子 大貝 寿子  
横井嘉世恵 宮本 薫 阿部 徳子 藤井 雅代 玉木 隆子  
木田サチコ 近藤 静恵 西田 善彦 南 郁代② 山田 和子  
南 泰樹② 佐治 孝 越 由子 大木 真澄 曾江 司  
前野 亮治 天羽 羽衣 垣内耕太郎 和佐 豊子 横塚 榮一  
鈴江 兼子 富永 裕子 楠 博子 成瀬八千子 一宮多枝子  
下内 良一 富田ちえ子 松本 宏 高田 彰一 吉田 陽子②  
萬藤 武徳 高松 正彦 家形笑美子 藤川 恭子 蛇目 町子  
平田志保子 小笠原瑞穂 藤本 友香 前田 道子 山川 恵子  
藤中 教代 相原 良平 吉野 由紀 松本みづる 戸島 裕明  
平尾 静子 椎野 寿子 阿部真由美 八木 智江 国井 秋子  
橋本 正子 森 克江 賀川マチ子 笹田みずえ 寺島喜代子  
里見 正威 松葉恵美子 福嶋由紀子 清水由利子 小橋美知子  
高木 洋子 前川 正子 岡谷あかね 小西 幸枝 隅田 良佑  
吉田 眞弓 藤井 哲信 田村 祐子 丸居 哲雄 高瀬 真記  
吉田 晃子 大内 敏男 中西 達也 鳥井 明子 北野 亘章  
大西 君代 豊田 昭子 田村 佳代 梶原 浩二 山下 久美  
谷内 年子 岡田 邦子 筒井 節子 武田 潤子 田村栄一郎②  
新居久美子 龍木 秀子 澤内 和代 塩出 敬子 四宮 千代  
内藤 久子 矢野 良子 近藤 川津 清原 眞弓 田村 純子  
近藤富美代 平野みや子 板東 啓子 阿部 俊江 近藤佐起江  
加藤 和美 綾野 昌子 落久保重利 中山 公司 三橋 玄児  
千崎 太郎 清田美和子 永山昭一郎 青木 壽美 村上 綾子  
武田 純子 山崎のぞみ 村川 栄一 竹田 充子 椎野 隆子  
久保 祐子 林 恵子 山西 政子 谷田 博昭 松島 典子  
天野 和子 竹岡由美子 小栗加代子 吉田 祐子 仁田 和子  
山田真由美 松下 羊子 北岡 啓子

# 書 道

- 〔審査員〕 稲垣 菘圃 横山 煌平 船本 芳雲
- 〔特別出品〕 荒井 天鶴 新居 藍州 上田 溪水
- 〔招待〕 宮井 青雨 長原 皋聖 西 南龍 成尾 莊秀 原田 霄月  
 芝原 醒鶴 前川 古舟 清水 桂月 美馬幾美賀 春藤 大耿  
 中谷 史子 長谷 美峰 勝瀬 景流 川上 虹泉 三間 好鷺  
 近藤 静苑 日下 溪翠 岡島 順子 荒井 彭仙 竹田 和代  
 山口 華城 藤若 美風 武市 鳴雲 中尾 勝子 佐藤 真  
 富久 鳴泉 永松 春苑 島田 小園 坂本 霄風 浜 佳香  
 隅田 英二 松本 清香 多田 清芳 玉城 乾香 薄田 玲泉  
 能仁 華瑤 高田 青蓮 三浦富美代 宇山 泰鳳
- 〔贊助出品〕 東 南光
- 〔無鑑査〕 岩本 雅三 林 浩一 亀石 文苑
- 〔遺作〕 高岡 晃祥
- 〔特選〕 詫間 勝子 (徳島県美術家協会会長賞)  
 駒田 澄子 川村 真澄 米澤 司子 由宇 典代 上田 久恵  
 平岡 郁子 田淵 元博
- 〔準特選〕 八木 澄江 折野 茂幸 矢部 知子 青木 博美 林 みゆき  
 谷本 洋子 金子 博明 向井 京子 宮西 恵子 井上 まり  
 丸田 三恵 高瀬 義郎 谷口 陽子 中川 博雅
- 〔奨励賞〕 河野多美子 山地 靖子 伊勢 浩美 射場 博子 蓑毛 真琴  
 向井美由希 脇坂 優 三木アキ子 竹中 敏恵 岸 緑  
 佐藤 恵子 春川 登 中川 富量
- 〔入選〕  
 漢字の部
- 脇 博 松永 浩子 吉平 順子 平野 実 澤本 鈴美  
 西村 宣昭 答島 美穂 河野久美子 中尾三智子 永岡ツタエ  
 山内希与子 籙 品子 坂本 敬子 椎野 薫 野上真由美  
 平田美香子 石井 瞳 真鍋 洋子 乾 温史 鈴木 正友  
 洲崎 忠雄 西野 道夫 細井 守 花本ふくみ 藤田喜美代

上田美千代	豊浦 佳子	川辺 光俊	北村 浩子	丸岡 茂夫
谷口 統雄	大塚 唯士	渡部 俊子	山崎 真美	大本由紀子
高柳 由美	泉川真理子	服部 弘子	柿原 成子	青木 真梨
春川 登	浅川 陽子	中村 絢子	金子 博明	谷 典子
中村 美子	土井 和也	丸岡 由美	満壽川愛弓	大西 好子
福家 佳余	村井 香織	東野 恵巳	秦 知美	粟飯原優子
若木 恭子	吉田 有子	前田 麻子	中谷 明美	宮脇 郷子
井上 公子	春藤 秀子	稲井 知子	中西 淑子	泉 一二三
馬居美智恵	米木由美子	春藤 真紀	片山 芳明	鈴木エリ子
田上 洋子	山下弥栄子	弘田 敏章	福永久美子	後藤 佳美
稲木 裕美	安原 照代	高尾 泉	原 貞子	三崎美佐代
大和 公代	黒田 美穂	笠原 笑子	中川恵美子	桑田 次雄
久積富美子	陶久 房枝	宮本 暁美	奥田 文子	大下 富江
大野シゲ子	杉本 妙子	村部 幸子	吉田 和子	益岡 輝実
片山 保	稲井 由香	佐々 京子	阿部 千明	谷 弘美
宇山 和治	熊代 厚子	岡 典子	西岡田さつき	仁木 輝実
堀江 孝己	吉村 敬子	野口 有香	谷本真由美	辻 尚子
久保 朝子	恵美 恵子	笠井 仁美	多賀 晴代	遠藤 清子
荒川 哲信	佐野 陽子	三條 宣隆	勝浦 美和	小林 忠志
萩原 陽子	田中 育子	村沢健太郎	戸出 浩子	中川 恵
三好 啓子	吉岡 逸子	田中 偉嗣		

### 篆刻の部

西村 和恵	住友 通瑛	田渕 勲	横田 雅夫	横田津喜子
貝塚 鎮雄	上田 忠敬	森本真由美	乗島 栄子	中井千香子
波多野雅子	米津 瞳	臼木 茜	西藤 真里	馬木 由佳
岸本 友紀	島田 麻由	新居 愛美	上原 真実	西堀 柳亀
植上富美子	森本 明子	遠藤恵美子		

### 仮名の部

東 弥生	伊藤 秀子	島田 利枝	藤原 育代	佐野チヨミ
河野 静江	向井 絵美	山本 愛美	福島 由子	中筋 良江
久住 律子	木村 弘子	山口寿満子	西岡 咲子	西宇 明美
芳田 知子	藤田 健二	中野 幸代	大平 英子	藤井 昭子
山橋不二子	畠山 政子	加藤 光子	原田 葉子	田村富士子



富山 康江	飯尾 清	松本トキ子	井上小百合	賛田美恵子
山本 恵子	関 藤子	廣瀬 久代	佐川 公子	倉本 節子
森 弥生	湊 泰子	水口 久枝	繁崎登美子	福村喜代子
林 孝枝	野口 和子	柏原 善子	遠藤 由子	岡島 公子
井上 彰夫	宮崎 早苗	川口 珠枝	山本 美幸	森 裕美子
竹内 英子	宮守 とみ	皆谷 露子	松本由希子	河野紀代子
井内 光子	近藤真千子	背川 章子	一ツ松真弓	大滝富美枝
西 直子	荒岡 直子	向井 境子	南本 智子	田岡佐記子
内田 麻紀	崎野亜希子	藤本満里子	久積希実子	加村喜美子
大塩 幹子	藤井三樹子	新子 町子		

### 近代詩文の部

矢野 照代	山崎ひとみ	吉田さい子	若林 節子	渡邊 亜希
和田 悦代	青木寿恵子	朝三 和子	石井 益美	上原三千代
遠藤玻都恵	遠藤 禎子	大島 清子	大西 英子	大西千鶴子
岡川 泰江	岡崎 啓子	河野 富子	川端喜美子	木内 典代
栗林 和江	栗山 弘子	桑村 清	幸田 康代	定本 宏美
里村 典子	佐原 武子	武田 淳子	谷本 清子	玉城 若菜
出原とし子	鳥井佐知子	長尾由美子	長野 裕子	長原 七与
仁木しもえ	野口 晴世	野田 満代	野田 洋子	橋本 君代
濱口 敏子	引地 美貴	福山 啓子	藤本 優子	松岡 文子
丸岡 良子	森浦 和子	芦谷 后子	生野 久美	岩崎 麻美
居和城幸代	上田由美子	檜山 正代	桐生 弘美	下内 良一
庄野ゆかり	川又 敏香	大津 明美	和田富美子	吉田佐知子
竹川 秀穂	山口 文子	木田 史子	森本 陽子	

### 前衛の部

梶川 佳奈	松本真理子	枡富 年子	阿部 公恵	伊藤 真美
渡辺由紀子	松浦 弘子	麻植塚由佳	今田真梨子	大黒未来美
三浦 みや	筒井 美帆	大胡 真美	笹木 明華	谷口 友麻
岸岡 寛子	近藤 美絵	村田 泰輝	永井 厚子	柏尾美恵子
西岡 珠子	高松 輝子	島尾 明良	佐藤由紀代	梶芳 育代
義富 博正	中峰 満世			

## デザイン

- 〔審査員〕 新島 実
- 〔特別出品〕 坂本三千一
- 〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子
- 〔賛助出品〕 福井 章
- 〔無鑑査〕 沢口 功 斎藤志津子 斎藤 剛
- 〔特選〕 四十宮隆志 (徳島県知事賞)  
長宗 瞳
- 〔準特選〕 小笠原瑞穂 敷島のり子 池内 理菜
- 〔奨励賞〕 後藤 郁美 四宮 光理 岩佐新太郎
- 〔入選〕 北島 豊嗣 千崎 太郎 西林 良枝 眞鍋 翼 東 郁実  
谷口 由人 柳生 雅美 福本 愛美 高野 恵吏 東谷 薫  
松本 直子② 小川 尚子 池内 理菜 島 美里② 近藤 仁美②  
四宮 光理 林 敏雄 近藤 沙樹② 四十宮隆志③ 達見かおる  
猪森 麻衣 小川 優子 西條 明彦 小林 あい 鈴江 万智  
西山 稔江 敷島のり子 小笠原瑞穂② 近清さよこ②

## 第61回県美術展出品・入選等状況

部門		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
区分									
出品数		66	338	730	23	246	813	106	2,322
人数		62	220	248	20	171	532	74	1,327
入選	率	60.6%	40.2%	21.2%	60.9%	59.8%	43.1%	42.5%	38.2%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入選	32	122	134	9	138	315	37	787
	計	40	136	155	14	147	350	45	887
落選	率	39.4%	59.8%	78.8%	39.1%	40.2%	56.9%	57.5%	61.8%
	落選	26	202	575	9	99	463	61	1,435
招待等	特別出品	2	2	2	1	1	3	1	12
	招待	5	4	22	5	8	39	2	85
	無鑑査	2	2	7	1	1	3	3	19
	賛助出品	0	8	0	1	2	1	1	13
	計	9	16	31	8	12	46	7	129
展示数		49	152	186	22	159	396	52	1,016

◎特別賞は特選の内数である。

# 徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	[野 間 仁 根 家 永 駒 三 郎]	委 員	
2	大 栗 旌 折	野 間 仁 根	上 田 備 山	[太 坂 田 東 三 文 郎 夫 太 坂 鹿 田 東 内 三 文 芳 郎 夫 洲]
3	委 員	伊 原 宇 三 郎	同 上	同 上
4	委 員	須 田 国 太 郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝 之 介	小 野 由 行	[太 坂 田 東 三 文 郎 夫]
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀 太 郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤 太 郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	[太 坂 田 東 三 文 郎 夫]
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	[鈴 野 木 間 信 太 郎 野 仁 根]	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長 三 郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令 太 郎	同 上	[辻 坂 東 晋 文 堂 夫]
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘 治 郎	同 上	安 田 周 三 郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初 太 郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユ キ 子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 藏	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿 岐 羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大 五 郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25	奥 村 厚 一	齐 藤 真 成	同 上	原 武 典

# 展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デ ザ イ ン
鬼塚信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭山南木・織田子青	
同 上	手 島 右 卿	
〔鬼塚信之 新田藤太郎〕	同 上	
鬼塚信之	小 坂 奇 石	
明石朴景	辻 本 史 邑	
会田裕宣	織田子青（漢）・出口草露（仮）	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠 荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
大 西 忠 夫	同 上	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	
藤 本 能 道	同 上	

部門 回数	日本画	洋画	写真	彫刻 (46回まで彫塑)
26	梶 喜 一	島 村 三 七 雄	棚 橋 紫 水	掛 井 五 郎
27	上 原 卓	高 田 冊 夫 誠	伊 藤 宮 武 己 二	松 村 外 次 郎
28	黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫 三 彦	岩 宮 武 上 二	小 畠 広 志
29	松 岡 政 信	中 島 田 章 三 彦	同 同 上 上	保 田 春 彦
30	黒 光 茂 樹	田 中 忠 三 彦	同 同 上 上	篠 崎 明 雄
31	河 合 健 二	田 中 忠 三 彦	同 同 上 上	江 口 週 彦
32	長 谷 川 青 澄	山 口 長 男	〔岩伊〕 宮 武 二 己 二	一 色 邦 彦
33	松 岡 政 信	吉 井 忠 三 彦	〔岩秋〕 宮 武 庄 太 郎 二	柳 原 義 達
34	山 岸 純	小 西 保 文 郎	岩 宮 武 上 二	清 水 九 兵 衛
35	樋 笠 数 慶	小 荻 太 淳 郎	同 同 上 上	桜 井 祐 一 武 道
36	坂 口 麻 沙 子 寛	吉 井 山 見 野 須 齊	同 同 上 上	土 谷 本 正 九 兵 衛
37	下 同 上	野 見 山 見 野 須 齊	同 同 上 上	山 本 水 田 九 兵 衛
38	同 同 上	須 齊 藤 真 和 一	高 田 同 誠 上	清 城 水 良 治
39	同 同 上	齊 藤 真 和 一	同 同 誠 上	城 水 良 治
40	下 保 昭	津 高 和 一 雄 郎	〔岩高〕 宮 武 三 高 二 淳 三 淳	清 水 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
41	橋 田 二 哲 朗 男 純 夫 人 夫 稗 夫 人 寛 人 一 哉 り 男 夫 夫 紀 一 司 明	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	淀 木 橋 山 土 峯 小 建 綿 古 恩 石 香 小 日 石 原 菅 米 北 鈴
42	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
43	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
44	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
45	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
46	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
47	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
48	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
49	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
50	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
51	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
52	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
53	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
54	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
55	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
56	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
57	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
58	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
59	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
60	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木
61	同 同 上	小 松 崎 領 山 根 穴 井 森 本 沼 越 栖 根 樹 田 谷 木 津 本 島 山 谷 本	奈 良 原 宮 木 田 木 同 木 島 同 奈 良 原 藤 江 田 同 石 同 江 成 石 成 同	木 井 津 本 崎 谷 田 島 引 島 田 井 浦 林 原 黒 原 林 郷 木



美術工芸	書	道	デザイン (37回まで商業美術)
三井安蘇夫	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠		金野弘
六角穎雄	同 上		大智浩
鈴木貫爾	同 上		早川良雄
田村耕一	同 上		原中弘光
山脇洋二	同 上		田中一英雄
浅野陽	同 上		奥野唯人
前田泰次	同 上		灘本唯人
山脇洋二	同 上		大高猛
中山光哉	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・田中双鶴		福田繁雄
山脇洋二	同 上		永井一正
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		山城隆一
同 上	同 上		粟津一潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		田中一啓
同 上	同 上		長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰		亀倉雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵		伊藤憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇		サイトウ・マコト
山下恒雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山		佐藤晃一
三浦小平	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓		河北秀也
松永勲	浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩		松永真己
山下恒雄	近藤撰南・東山一郎・中野北溟		浅葉克己
島田文雄	谷村嘉齋・植村和堂・太田義久		勝井三雄
大山西長	安原皐雲・池田桂鳳・金子卓義		五十嵐威暢
山下恒雄	鈴木桐華・西本支星・金子聰松		青葉益輝
島田文雄	尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭		松永真丸
中井貞次	栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟		安西水一
栗木達介	甫田鷄川・小山やす子・石飛博光		U. G. サト
宮田亮平	杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂		早川良雄
松永勲	津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石		戸田正寿
竹内順一	田中節山・村上俄山・黒田玄夏		杉浦康平
栗木達介	宮崎葵充・赤江華城・金子卓義		秋山孝享
中井貞次	星 弘道・宮重小蘭・西野象山		遠藤誠
島田文雄	吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣		中村良平
竹内順一	岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭		小島正
宮田亮平	伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂		永井一
島田文雄	稲垣菘圃・横山煌平・船本芳雲		新島実

---

# 各部記録

---

# 日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

## 年間展望

◎第61回県美術展（10月4日～9日 アスティとくしま）

今回の審査は、院展評議員の宮廻正明先生にお願いした。応募点数は昨年より6点多い66点で、その中から特別賞（特選）1、特選1、準特選3、奨励賞3、を含む入選40点を選んだ。宮廻先生からの総評は次のようなものであった。

審査をして感じたのは、全体に色使いが明るく徳島という地方のもつ風土に思いを込めたものもあり、バリエーションにあふれていたことだ。

絵というのは短所を直すのではなく、長所をどんどん伸ばしていけばいい。数学や国語と違って、記憶ではなく感性。色彩でもモチーフでも、「日本画」という型にはまらずに“自分はこうしたい”という前向きの姿勢で、自分なりの表現を追求してほしい。

特 選 (県議会議長賞)	「凜」	坂 容子
特 選	「春宵」	反田 卓
準特選	「花曼陀羅」	水田 貴子
〃	「breath —ナンビア の夜明け—」	石原 千鶴
〃	「休日」	梶浦 千瑞
奨励賞	「朱夏」	平野 真里
〃	「軒（のき）」	岩脇 恵子
〃	「田園」	藤井 吉信

## 会員消息

（県展関係は除く。月別。）

3 月	第11回朱泥会展	徳島市シビックセンター	長尾弘子他会員33名出品55点展示
4 月	第41回日春展	東京銀座 松屋	橋本正弘・岡 英彦
〃	第46回日本南画院展	東京、京都、大阪美術館	長谷 壽・藤井瑞雲
〃	第41回日本墨彩画院展	香川県文化会館	長谷 壽
〃	南部総合県民局県民ギャラリー展示		長谷 壽

- 4月 第96回徳島県女流美術家協会展  
阿波銀プラザ 長尾弘子・土井洋子他15名
- 5月 第45回阿南市美術展 阿南市文化会館 長谷 壽・津田津保三  
 ♪ 第44回溪生社水墨画展 四電プラザ 横田谿秀・江上豊溪  
 ♪ 日本画の魅力について、徳島県立近代美術館で長尾弘子氏が講師として会場で解説を担当
- 6月 第39回珀雲社展 阿波銀プラザ 長谷 壽・藤井瑞雲・川原光恵  
吉田満子  
 ♪ 第35回徳島・仙台文化交流展  
 せんだい・メディアテーク5F Aギャラリー  
 長尾弘子・土井洋子他6名出品
- 9月 「あいの風展」第97回徳島県女流美術家協会東京展  
銀座OS画廊 長尾弘子・土井洋子・斉藤久代  
他14名出品
- 10月 第46回有秋会展 大阪市立美術館 藤井瑞雲  
 ♪ 第8回美波町由岐文化祭美術展  
 由岐ポッポマリン 長谷 壽
- 11月 第38回日展 東京都美術館 橋本正弘・岡 英彦  
 ♪ 第35回阿南市文化祭美術展  
 阿南市文化会館 長谷 壽・津田津保三  
 ♪ 第7回福井町文化祭展 阿南市福井町総合センター  
 長谷 壽  
 ♪ 美波町日和佐文化祭展 日和佐公民館 坂本久江・白河邦子・西口光代  
 南 清子  
 ♪ 溪生社水墨画小品展 四電プラザ 横田谿秀・江上豊溪
- 12月 第38回石井美術の会作品展  
阿波銀プラザ 中川 健  
 ♪ 第35回歳末チャリティー作品即売展  
 徳島そごう 長尾弘子・土方るみ子

# 洋 画 部

部 会 長 梶 田 務

## 年間展望

◎第61回県美術展 (10月4日(水)～9日(祝) 会場・アスティとくしま)

第61回県展は、県郷土文化会館改修工事のため、会場をアスティとくしまに移し、壁面を特設しての開催となった。壁面の長さはほぼ従来どおり確保されたが、洋画部門は重量など展示上の問題と、これまでの入選率30パーセントという厳選を緩和するため、作品の大きさを上限60号とした。

応募作品の総数は338点で、前回より36点増加した。入選点数も136点を数え、入選率が40パーセントの大台に乗せることが出来た。

また、特選3点(内1点は県教育長賞)、準特選及び奨励賞各5点は、今回、準特選が1点増しとなり、入賞作品数は計14点となった。

審査員には、二紀会会員、同会の常務理事で筑波大学名誉教授の山本文彦先生をお迎えした。午前9時30分から午後3時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。

審査評の一部を紹介する。

「誠実かつ充実した絵が多かった。しかし、新しい表現への独創性を前面に出す覇気が不足している印象を受けたのも事実だ。それぞれの教室のカラーはあってもいいが、個性を強調する意欲を見せてほしい。

県教育長賞の二條均「静物」は、自分の心に触れたものを集めてきて、しみじみと描いた点に好感が持てる。心の繊細さや静けさをうまく表現した。空間の中にカボチャとカラスウリ…。描かれている以上に空気や温度のようなものを感じた。緑土色を用いたセピア写真のような色合いも郷愁を誘う。こまかな明暗と色調を拾いながら、人にある種の癒しを与えている。空間に当たる部分を霧のような無限の広がりにして、モチーフだけを中心に浮かび上がらせることに成功している。

特選の西川敬子「積む」は、港の片隅に積まれたドラム缶という物そのものの色を画面に持ち込んだダイナミックな表現が魅力的だ。色や形とマチエールを存分に駆使して、心の精いっぱい叫びを描いた。ドラム缶に描かれたアルファベットや数字からも、何かある種の意味が伝わってくる。そんな試みを自由自在にやった思い切りのよさがいい。

特選の瀧川勝雄「生命—誕生」は、青を基調とした木版画。見る人にイメージを鮮明に伝える力がある。果物のような、卵子のような何かを思わせる楕円形の物体を、斜め

に浮遊しているように配置し、誕生という言葉とうまく結びつけた。墨を水面に流したような背景のマーブルングや色の対比や相関の関係をうまく取り入れた技法にも強いインパクトを感じた。

絵は心の表現だ。想像力を養いながらドローイングの練習を重ね、今までの自分を越えて一步踏み出す創造の勇氣を持ってほしい。」

今回、作品の大きさを上限60号と定めたことで入選点数を130点プラスアルファと算定した。(実数136点) その結果、前回に比して、入選者数の大幅な増加となり、好感をもって迎えられているようである。洋画部委員会での意見も、この状況を継続する方向でまとまったが、なお、よく検討した上で、次回の第62回展につないでいくこととしたい。

### ◎放美展、洋画部会員展

春の県展としての放美展と県美術家協会会員相互の研究・交流の場としての洋画部会員展は共に県民に愛好されているが、会場である県郷土文化会館の改修工事の関係で18年度の開催は見送られた。平成19年度については、次のとおり開催が予定されている。詳細は、それぞれ運営委員会により決められる。

第21回洋画部会員展	平成19年5月24日～5月27日	搬入日	5月23日
第15回放美展	平成19年5月2日～5月6日	出品申込み締め切り日	4月13日
		搬入・審査日	4月29日

### 会員の訃報

永山隆二 平成18年8月19日、89歳の天寿を全うされました。氏は、第1回県展から60年に亘って継続して出品され、この間、数多く受賞され、また県美術家協会理事、洋画部部会長、顧問として、県展の発展に寄与されました。心からご冥福をお祈りいたします。

### 会員消息

(県展を除く。五十音順。)

- 青木 幸子 八紅展(阿波銀プラザ)、八万文化祭(八万コミュニティセンター)、東富田文化祭(東富田コミセン)
- 浅山 久子 八紅展(阿波銀プラザ)
- 東 紀美子 徳島アート21第4回展(阿波銀プラザ)、阿南市文化祭(阿南市文化会館)
- 天田 弘之 第39回モダンアート徳島支部展、第18回療4人展、第39回石井美術の会展(阿波銀プラザ)、第56回モダンアート展(東京都立美術館)、第56回モダ



ンアート京都展（京都市立美術館）、第56回モダンアート福岡展（福岡市美術館）、第25回関西モダンアート展（大阪府立現代美術センター）

- 阿部 昌子 土曜展（徳島市シビックセンター）、青美展（阿波銀プラザ）
- 伊勢 浩章 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、月曜会展（ファンファーレ）、個展（喫茶グレイス）
- 乾 繁春 第66回美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、第66回関西美術文化展（大阪府立美術館）、美術文化14人展（東京銀座アートギャラリー）、美術文化四国支部展（高知県立美術館ギャラリー）、NHK高松文化センター水彩美学展・油彩美学展：賛助出品（高松市美術館ギャラリー）、世代美術展（徳島市シビックセンター）
- 岩谷 明 第38回画展ふるさと、青美展（阿波銀プラザ）、つくし絵画グループ展（ヨンデンプラザ徳島）
- 越久 高照 藍美展（藍住町福祉センター）、青美展（阿波銀プラザ）、青美3人展（藍住町藍の館）、国文際（山口県旧県議会議事堂）
- 小笠原秋子 土曜画展、三好市文化祭：協賛出品（ヨンデンプラザ池田）、徳島新聞カルチャー紙上展、三野町文化祭（三野町立体育館）、三好郡教職員春風展（たばこ資料館）
- 尾崎 素子 東光会展（東京都立美術館）、鳴門市市展（鳴門市体育館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）、白鳳洋画グループ展（鳴門市立図書館）
- 大塚 政孜 吉野川市・阿波市交流美術展（吉野川市文化研修センター）、市場文化祭（市場ふれあいセンター）、市場油絵会展（ヨンデンプラザ徳島）
- 大西 文代 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 大西 道夫 第55回モダンアート展（東京都立美術館）、モダンアート京都展（京都市美術館）、モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、小松島市美術展（小松島市中央公民館）、第26回道草展（喫茶やまなみ）
- 大西利津子 徳島市芸術祭美術展、徳島二紀展（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、第21回徳島二紀展（県立近代美術館）
- 大野 文雄 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、サークルふれあい祭り展（徳島市中央公民館）
- 岡 多美子 徳島市芸術祭美術展：審査員出品（徳島市シビックセンター）、新象展（東京都立美術館）、第96回徳島県女流美術家協会展（阿波銀プラザ）、第97回徳島県女流美術家協会東京展「INDIGOあいの風」（銀座OS画廊）

- 岡田 君代 青美展（阿波銀プラザ）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 岡田 守 第65回世代美術展（徳島市シビックセンター）
- 賀木 道子 第72回旺玄会展：委員出品（東京都立美術館）、旺玄会大阪巡回展（大阪市立美術館）、第65回世代美術展（徳島市シビックセンター）
- 加賀谷愛美 第60回記念女流画家協会展（東京都立美術館）、アトリエ・Aimiこども絵画展、Aimi&ファミリー展（徳島市シビックセンター）
- 片山 富市 第72回旺玄展：会員出品（東京都立美術館）、第72回旺玄会大阪巡回展：会員出品、第54回関西旺玄会展：会員出品（大阪市立美術館）、第10回旺玄会東四国支部展（阿波銀プラザ）
- 川田 績 美馬市文化祭（脇町ウダツアリーナ）
- 河田 安市 第38回日展：入選、第82回白日展：会員出品（東京都立美術館）
- 河野 公子 第66回美術文化展（東京都立美術館）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、美術文化関西展（大阪市立美術館）、青美展（阿波銀プラザ）、鳴門市展（鳴門市体育館）
- 川原 禮子 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、三好文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
- 河本多恵子 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府町コミュニティセンター）、徳島新聞カルチャー紙上展
- 木谷 弘 第66回美術文化展（東京都立美術館）、第66回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（高知県立美術館）、木谷弘個展（喫茶グレイス・森珈琲店）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）
- 北 美智子 徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）
- 喜多 直彦 脇町文化祭（脇町ウダツアリーナ）
- 木下 和江 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
- 岸本 花子 八紅展（阿波銀プラザ）、徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 黒崎 志郎 第37回示現会徳島支部展（阿波銀プラザ）、第59回示現会展、第94回日本水彩展、第38回日展（東京都立美術館）
- 答島 久子 波の会・つくしの会合同展、第45回阿南市美術展、第35回阿南市文化祭（阿南市文化会館）、久子&英淳親子展（アトリエNAYA）
- 近藤 克子 東光会展（東京都立美術館）、ふるさとを描き遺す会展、第96回徳島県女

流美術家協会展（阿波銀プラザ）

- 近藤 千尋 あしあと展（阿波銀プラザ）
- 後藤ユリ子 第66回美術文化展（東京都立美術館）、第66回関西美術文化展（大阪市立美術館、美術文化四国支部展（高知県立美術館）、ロビー水彩個展（阿波銀八万支店）
- 後藤田仁一 第66回美術文化展（東京都立美術館）、第66回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（高知県立美術館）、第65回世代美術展（徳島市シビックセンター）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）
- 佐野比呂志 第43回関西独立展：無鑑査出品（大阪市立美術館）、徳島市芸術祭美術展：審査員出品、第65回世代美術展（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第4回展：賛助出品（阿波銀プラザ）
- 佐藤 敬子 青美展（阿波銀プラザ）、鴨島美術グループ展（吉野川文化研修センター）
- 清水 亟煥 国際芸術大賞フランス2006出品、第39回清水亟煥個展（徳島そごう）
- 斉藤 靖子 日本版画院展（東京）、徳島版画会展（阿波銀プラザ）、第96回徳島県女流美術家協会展（阿波銀プラザ）、第97回徳島県女流美術家協会東京展（銀座OS画廊）、国際平和美術展（メキシコ）、版画と染色展（東かがわ市）
- 志摩 政照 吉野川市・阿波市交流美術展、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 島上 二郎 東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）
- 四宮 久子 二紀会展（東京都立美術館）、神戸二紀女流作家展（神戸）、徳島二紀展（阿波銀プラザ）
- 島田美奈子 徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 下時治郎秀臣 白日会：会員出品（東京都立美術館）、白日会巡回展（愛知・九州・大阪）、水無月会展（銀座相模屋）、日展：入選（東京都立美術館）、秀作美術展（大阪梅田画廊）、かけがえのない現象展（日本橋三越）、白薔会展（近鉄阿倍野）、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 住友 義彦 阿南市羽ノ浦公民館展（羽ノ浦公民館）
- 下内 裕次 モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）
- 鈴木 敬子 鴨島美術グループ展、吉野川市・阿波市交流美術展（吉野川市文化研修センター）、M展（阿波銀プラザ）
- 曾我部秀子 八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）

- 田中シゲミ 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）、J A 徳島北文化交流展（J A 徳島北事業所）
- 田中 康子 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府コミュニティセンター）
- 武田 洋子 三好郡教職員春風展（たばこ資料館）
- 田淵 浜子 東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）
- 為実美恵子 三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
- 玉田 秀子 徳島アート21第4回展、八紅展（阿波銀プラザ）、波の会・つくしの会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 辻野 正廣 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 唐渡 覚 阿波市文化祭（阿波市文化会館）
- 中辻奈美枝 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、波の会・つくしの会合同展、阿南市文化祭：賛助出品、阿南市美術展：賛助出品（阿南市文化会館）
- 中山 清一 第66回美術文化展（東京都立美術館）、美術文化展（京都市美術館）、関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（高知県立美術館）、美術文化徳島支部展（阿波銀プラザ）、2006とくしまねりんぴっく（徳島県立21世紀館）、ねりんぴっく静岡大会（静岡コンベンションアーツセンター）、徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）
- 中村 晴代 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 永井 郁枝 東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）
- 長尾 弘久 長尾弘久版画展（喫茶グレイス）、徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、徳島版画第4回展（県立近代美術館）
- 長野 満子 徳島城博物館文化祭作品展（城博）、第38回画展ふるさと、第35回絵で見る徳島展（阿波銀プラザ）、21世紀に遺したいふるさと徳島の風景展（城博）
- 南城ミツ子 第72回東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）
- 仁木 幸子 八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 西 富美 第19回日本の自然を描く展（上野の森美術館）、同・西日本展（兵庫県立美術館原田の森ギャラリー）、第34回サロン・デ・ボザール展（東京都立美術館）、同・in 京都（京都市美術館別館）

- 西川 敬子 第96回徳島県女流美術家協会展、徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、第97回徳島県女流美術家協会東京展（銀座OS画廊）
- 西川 周三 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）
- 西崎 志帆 月曜会展（ギャラリー喫茶ファンファーレ）、昭和美術会展（京都市立美術館）
- 二條 均 青美三人展（藍の館）、青美展（阿波銀プラザ）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 野上 恵子 八紅会展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）、佐那河内村文化祭（村役場）
- 野口 暁子 徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）
- 野村 雅子 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、波の会・つくしの会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 林 康太郎 第66回美術文化展（東京都立美術館）、第66回美術文化関西展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（高知県立美術館ギャラリー）
- 林 信夫 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 日野 邦恵 東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）、画展ふるさと展（阿波銀プラザ）、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、吉野川市文化祭（川島体育館）
- 平松 智子 吉野川市・阿波市交流美術展、鴨島美術グループ展（吉野川文化研修センター）、青美展、石井美術グループ展（阿波銀プラザ）
- 福本 武子 東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（徳島市シビックセンター）
- 福良 哲子 徳島市芸術祭美術展：招待（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）、徳島新聞カルチャー紙上展
- 藤井 香世 第66回美術文化展（東京都立美術館）、第66回関西美術文化展（大阪市立美術館）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 藤崎 恭子 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）
- 藤埜 理 創元会展（東京都立美術館）、西讃美術展（善通寺市美術館）
- 藤丸 家栄 徳島アート21第4回展（阿波銀プラザ）、土曜会展、三好文化祭（ヨンデンプラザ池田）、藤丸家栄ざわーんど（ギャラリー喫茶グレイス）
- 藤本 晴子 ブルガリア国際博覧会（国立海外美術館）、レッドリボン芸術大賞（上野の森美術館）、エキスピディ、オミネルバァ（横浜ランドマークプラザ5F）、美馬市文化祭（脇町ウダツアリーナ）

- 堀江 幸子 吉野川市・阿波市交流美術展、吉野川総合美術展、鴨島美術グループ展  
(吉野川市文化研修センター)、鴨島文化サロン展、ピーコック・サークル  
絵画展(本郷ギャラリー)、青美展(阿波銀プラザ)
- 堀切 薫子 青彩美術展(徳島市シビックセンター)、藍美展(藍住町福祉センター)
- 真鍋 弘子 徳島アート21第4回展(阿波銀プラザ)
- 真野 孝彦 吉野川市・阿波市交流美術展、鴨島美術グループ展(吉野川市文化研修セ  
ンター)、鴨島文化サロン展(本郷ギャラリー)、青美展(阿波銀プラザ)、  
個展(そごう)、神山展(神山町神領道の駅ギャラリー)、ふれあい会館展  
(徳島市ふれあいセンター)、2人展(喫茶サルバートル)、
- 榎田 務 東光会徳島支部展(徳島市シビックセンター)、第1回パルの会展(四電  
エネルギープラザ阿南)、四国大学教員展(四国大学交流プラザ)
- 松川 寛 モダンアート協会徳島支部展(阿波銀プラザ)、第56回モダンアート協会  
展(東京都立美術館)、第18回燎4人展、第39回石井美術の会展(阿波銀  
プラザ)、第19回関西モダンアート展(大阪府現代美術館)
- 松原 恵子 波の会・つくしの会合同展(阿南市文化会館)
- 三沢 尚子 関西水彩画展(大阪市立美術館)、水彩画個展(徳島そごう)、燎四人展、  
第96回県女流美術家協会展、それいゆ水彩画展(阿波銀プラザ)、第97回  
徳島県女流美術家協会東京展(東京銀座OS画廊)、第35回徳島・仙台文  
化交流展(せんだいメディアテーク)
- 三谷多美子 レモンの会(貞光ゆうゆう館)
- 三谷ミヤ子 徳島市芸術祭美術展：招待出品(徳島市シビックセンター)、年賀版画展  
(相生森林美術館)、八紅展(阿波銀プラザ)、東富田洋画展(アンデルセ  
ン・ふれあい健康館)、東富田文化展(東富田コミセン)、徳島版画展(県  
立近代美術館)、八万文化祭(八万コミュニティセンター)
- 三好 初子 東光会展：会員出品(東京都立美術館)、第96回徳島県女流美術家協会展  
(阿波銀プラザ)、東光会徳島支部展、徳島市芸術祭美術展：招待出品(徳  
島市シビックセンター)、藍美展(藍住町福祉センター)、第97回徳島県女  
流美術家協会東京展「あいの風展」(銀座OS画廊)
- 峯 幸子 峯幸子展(県立近代美術館)、風景スケッチ展(ギャラリー文化座)、女流  
小品展、む・アート展(阿波銀プラザ)、第97回徳島県女流美術家協会東  
京展「あいの風展」(銀座OS画廊)
- 毛利 谷子 東光会展：会員出品(東京都立美術館)、東光会徳島支部展(徳島市シビ  
ックセンター)、石井美術の会作品展(阿波銀プラザ)

- 山口 明美 八紅展（阿波銀プラザ）
- 山口 和子 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 山口美千代 青美展（阿波銀プラザ）
- 吉田 実 吉野川市・阿波市交流美術展、吉野川市文化祭：協賛出品、阿波市文化祭：協賛出品、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、阿波美術クラブ展（阿波市図書館）、吉田実個展（松山市リブアート）
- 米沢 博 第34回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、第12回徳島県健康福祉祭美術展（県立21世紀館）、第19回全国健康福祉祭美術展（静岡）

# 写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

## 年間展望

### ◎第61回県美術展（10月4日～9日 アスティとくしま多目的ホール）

今回の県展は県郷文改修のため会場がアスティとくしまに変更され、7部門の全作品が一堂に展示された。これはこれで立派な記念すべき県展であったと思われる。

写真部門の審査には昨年を引きつづき、九州産業大学大学院教授、江成常夫先生をお迎えした。応募総数730点、出品者数248人、前回に比べ少々の減となった。審査の結果、特選4点、準特選9点、奨励賞8点、入選134点が選ばれた。審査評として「昨年と比べて、正統派で内容豊かな作品が多かった。テーマ、モチーフは多岐にわたり、上位の作品は技術的に優れていた上、思想も込められており、レベルが高かった。私の審査基準は美しくて技巧に優れたものより、そこに込められた心に重心を置いている。それが芸術の普遍的な価値だからである」との示唆に富んだ言葉をいただいた。

特 選	「今日も母に逢えた」	平野 史子 (特別賞)
〃	「street」	櫛淵 紳哉
〃	「捕獲」	国見 良幸
〃	「哀しい目」	郡 利明
準特選	野藤 敏美・佐治 孝・一宮 由子・大津 勝治 阿部 啓三・播 博文・木下 昇・松原 玲子 佐野 和史	

### ◎県美協 写真部撮影会（6月11日）

今年の写真部主催撮影会は「街再発見もう一度訪ねたい倉敷」のテーマで久しぶりの倉敷行となった。徳島駅前7時出発、9時30分倉敷着、各自思い思いのテーマで撮影。15時出発、17時30分全員無事徳島駅へ帰着した。今回の会開催にあたり次の各委員にご尽力いただいた。

三木 晴夫・井藤 光章・古井 謙吉・林 敏彦  
井上 憲治・上野 照文



## 会員の訃報

藤井梵氏が5月7日ご逝去されました。氏は県展初期より活躍され、県展招待作家、又写真部委員として長年に亘って県写真界をリードして来られました。中央展でも数々の賞に輝かれ社会派の写真家として全国に名を馳せられました。正に巨星墜つての感があります。享年77才、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～

◎第4回全日本動物写真コンテスト（3月6日～11日 大阪アサヒコムホール）

入 選：内田 忠秋

◎四国再発見フォトコンテスト（3月16日～24日 県庁1Fロビー）

四国観光立県推進協議会賞：野藤みきよ

◎全日本写真展2006「現代を撮る」（8月7日～12日 東京銀座ニコンサロン他）

都道府県優秀賞：関口つとむ

◎第54回二科会写真部展（9月1日～16日 東京都美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治

会 友 出 品：森住 博・大和 健司・西條 征二

公 募：佐野 和史（タムロン賞）

公 募 入 選：石川 徹雄・国見 良幸・四宮 正恵・志摩 育美・西野 倫子  
森内 昭男・梅本 貞範・平野 史子

◎第53回阿波踊り写真コンクール（10月14日～22日 阿波踊り会館）

入 選：梅本 貞範・大森 孝克・上杉 大一・佐治 孝・森内 昭男

◎第13回朝日四国写真展（11月12日 松山市で審査 徳島展は07年1月19日～21日）

朝日新聞大賞：久我 千鶴

徳島県知事賞：井上 憲治

特 選：井藤 光章

奨 励 賞：内田 忠秋・林 敏彦・阿部 啓三・根ヶ山美江

入 選：野藤みきよ・野藤 敏美・橋本 圭祐・根ヶ山 治

◎第67回国際写真サロン（12月審査 東京展は07年4月3日～10日 新宿コニカミノルタプラザ）

入 選：橋本 圭祐

◎第40回日本光画会「光」展（1月7日～9日 徳島市シビックセンター）

会員出品：佐藤 義雄（三重県知事賞）

会友出品：内田 澄子・内田 忠秋

入 選：浜田佳津子

◎第21回全日本写真連盟県本部展（1月20日～22日 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：井藤 光章

出 品 者：根ヶ山 治・根ヶ山美江・野藤 敏美・野藤みきよ・橋本 圭祐  
林 敏彦・姫田 慎治・藤川 光昭・古井 謙吉・三木 晴夫  
三木 理司・森 賢一・森住 博・柳川 信子・阿部 啓三  
粟田ふさえ・井藤 光章・井上 憲治・上野 照文・内田 忠秋  
内田 澄子・川真田慶治・櫛渕 魏・久我 千鶴・佐治 孝  
佐藤 義雄・武林 恭史・谷 賢太郎

◎写真展「桜・桜・桜」（3月1日～6日 そごう徳島店7階）

代 表：荒井 賢治

出 品 者：荒井 賢治・石川 徹雄・梅本 貞範・国見 良幸・佐々木敏幸  
佐野 和史・土橋 成行・西野 倫子・播 博文・平野 史子  
宮本 幸治・森内 昭男・森住 博・柳川 信子・大和 健司

◎上杉大一写真展「私風景」（3月10日～12日 ヨンデンプラザ徳島）

◎英藍フォトクラブ作品展（3月18日～21日 阿波銀プラザ）

代 表：藤川 光昭

出 品 者：三木 啓治・藤川 光昭・上野 照文

◎大貝久義個展「四季の思い出写真俳句集」

（4月14日～30日 徳島市シビックセンター市民ギャラリー）

◎第7回ニッコールクラブ徳島支部展（4月15日～17日 徳島市シビックセンター）

支 部 長：櫛渕 魏

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛渕 魏・西條 征二  
佐治 孝・佐藤 義雄・中川 定典・根ヶ山 治・根ヶ山美江  
野藤 敏美・野藤みきよ・藤田 卓嗣・古井 謙吉・堀口 幸男  
三木 晴夫・三木 理司

◎第23回サンカ会写真作品展（4月15日～17日 徳島市シビックセンター）

会 長：森内 昭男

出 品 者：内田 忠秋・田中 伸廣・森内 昭男

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」（4月26日～30日 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎第6回UNITED作品展（5月6日～8日 徳島市シビックセンター）

代 表：上野 照文

出 品 者：橋本 圭祐・林 敏彦・井上 憲治・多川 静守・多田 晴美  
柳本 正・野口 佳一・上野 照文

◎第29回写真同人「炎」作品展（6月2日～4日 徳島市シビックセンター）

代 表：西條 征二

出 品 者：中川 定典・野口 佳一・林 敏彦・姫田 慎治・古井 謙吉  
堀口 幸男・森 賢一・大和 健司・阿部 啓三・荒井 賢治  
粟田ふさえ・井藤 光章・井上 憲治・川真田慶治・櫛淵 魏  
西條 征二・佐治 孝・田村 泰弘・伊達 照子・土橋 成行

◎第12回徳島ライカクラブ写真展（6月6日～8日 ヨンデンプラザ徳島）

会 長：武内 亨

出 品 者：武内 亨・後藤 能大・森 光

◎第1回徳銀OBフォトクラブ「写団朋有」写真展

（7月15日～17日 徳島市シビックセンター）

会 長：堀口 幸男

出 品 者：堀口 幸男・大西 啓子

◎写真集「ぬくいぜんか」出版記念 木頭・中野建吉写真展「ぬくいぜんか」

（8月3～6日 徳島市シビックセンター）

昭和55年県写壇にデビュー以来、ふるさと木頭の風物を一途に撮り続け、県展招待の他数々の榮譽に輝いた中野建吉氏がその作品群の集大成として表記の写真集を上梓。記念の個展を開催し好評を博した。

◎三好和義写真展「赤い楽園・青い楽園」—— サハラから吉野川へ ——

（8月5日～16日 吉野川市文化研修センター）

中央で活躍の三好和義氏が今年撮り下ろした吉野川の作品とサハラ砂漠の作品を合わせて展示。

◎第20回徳島花を写す会写真展（8月18日～20日 徳島市シビックセンター）

代 表：佐藤 義雄

出 品 者：内田 忠秋・内田 澄子・久保 英樹・佐藤 義雄・吉村 敏嗣

◎第46回写楽会写真展（9月8日～10日 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛淵 魏

出 品 者：栗田ふさえ・上野 照文・川真田慶治・櫛淵 紳哉・櫛淵 魏

関口つとむ・中川 定典・古井 謙吉・堀淵 完治

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」2006年後期

（10月4日～6日 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎第1回写真同人「光」写真展（11月14日～19日 よんでんエネルギープラザ阿南）

会 長：木田 英之

出 品 者：伊達 照子・田村 泰弘・林 敏彦・三木 晴夫・三木 理司

木田 英之

◎日本リアリズム写真集団徳島支部写真展（11月17日～19日 ヨンデンプラザ徳島）

出 品 者：木田 英之

◎第11回しゃらくの会写真展（12月15日～17日 ヨンデンプラザ徳島）

出 品 者：柳川 信子・矢部 弘子

# 彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

## 年間展望

### ◎第61回県美術展（平成18年10月4日～9日アスティとくしま）

今年の県展は例年会場としている県郷土文化会館が工事中のため、「アスティとくしま」を会場として行われた。会場の多目的ホールに全ての部門の作品が一堂に展示されたため、やや迷路状態の会場構成になったようだ。彫刻部門は少し照明不足を感じたがスペース的には満足できるものであった。

審査は武蔵野美術大学教授の鈴木久雄先生にお願いした。出品点数は23点で、そのうち入賞・入選作品14点が選ばれた。総数では昨年より2点多く、全体に習作的作品は減少し、大作の個性的特徴のある作品が目立った。他の部門と比べ県内での彫刻に取り組んでいる人数は少ないのだが、それぞれの作家がパワフルな仕事を見せてくれたことで内容的にはレベルの高い展示になった。

鈴木先生による審査は時間をかけ丁寧に見ていただいた。入賞については熟慮され決定されたようだ。また、審査後に先生から個別の審査評を聞くことができ、出品者はそれぞれ自分の作品についてアドバイスをいただき熱心に聞いていた。

審査評として「彫刻は、材質に裏付けられた形状を自分なりにどう表現していくかが重要だ。審査では、頭の中のイメージをその材質でなければできない表現にまで落とし込んでいる作品を選んだ」と話された。

「特選（徳島新聞社社長賞）に選ばれた居上真人さんの“海の陽気な仲間たち”は多様な形の魚を組み合わせ、2点で1つの作品を構成することで空間の中にリズムを生み出している。石の種類や彫り方もバラエティに富んでおり、すっきりとまとめ上げてかなりのキャリアを感じる。欲を言えばエイの置き方がやや安易で、作品全体に軽い印象を与えてしまった。石の素朴な形状の面白さを生かすのが作者の持ち味。そこを煮詰めていくと、さらにいい作品が作れるだろう」との評価をいただいた。居上さんはこれまで県展では何度も受賞を重ねており、今回の受賞で来年は無鑑査となり招待の道を歩むこととなる。中央の展覧会でも活躍している作家であり、具象の石彫刻家として伸びることを期待したい。

「準特選の木村大志さんの“青黛”は動物の頭を彩色した木彫で、この材質でなければ作れない形状である。会場で目が真っ先に引き付けられるとらえ方がやや甘い。もう

一步表現を突き詰めてほしかった。」と評された。木村さんも県展では毎回力作を発表されている作家だ。独特の表現を持つ具象作品を自分なりの見せ方で表現しようとしている。作品の素朴な姿と提示の方法がユニークで今後が楽しみな作家である。

「準特選の米田陽一さんの“M”は難易度の高い人体をゆったりとした柔らかな感性でとらえている作品である。人体の形状を律儀に追求し過ぎて人の気配がないものが多い中、作品を通して自然な存在を感じさせる。」と言われた。地道にコツコツと作られた中に存在感のある人体彫刻として評価されたものと思われる。

その他、奨励賞として高丸公相さんのプラスチックを利用した抽象作品“蜃気楼の匣”と東光司さんの石彫作品“刻まれた風景2006”が選ばれた。2人とも素材の扱い方が上手で独自の世界を見せていた。また、高校生からは、石膏で仕上げた人物像が多く出品されていた。これらについては「どれも誠実さがあり、好感を持ったが、表現が生で軽い。対象をよく咀嚼し、それを具体的な形にするまでもう少しよく見ることの試行錯誤を重ねてほしい。」とも述べられた。

## 会員消息

(県展関係は除く。順不同。)

居上 真人	1月	居上 真人彫刻展	県立近代美術館ギャラリー
	9月	第91回二科展会友：無鑑査出品	東京都立美術館
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
	11月	霊山寺「天空の街」設置	
	11月	地福寺「夕はんができたわよ」設置	
	11月	鳴門西小学校「海の陽気な仲間達」設置	
	11月	鳴門市鳴門町公民館「作品」設置	
	11月	大麻比古神社「フクロウ」設置	
	11月	仏壇製造会社「春を運ぶ使者たち」設置	
井下 俊作	8月	創立35周年記念兵庫県彫刻家連盟展：賛助出品	神戸原田の森ギャラリー
	9月	第61回行動美術展：会員出品	東京都立美術館
	9月	第61回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪府立美術館
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
	11月	日亜化学株式会社阿南工場にモニュメント設置	
大津 文昭	8月	創立35周年記念兵庫県彫刻家連盟展：賛助出品	神戸原田の森ギャラリー
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
河崎 良行	4月	2006春季徳島二紀展	徳島市シビックセンター
	4月	第8回春季二紀展	東京銀座画廊美術館

	8月	第21回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	野外彫刻ながの紀ミュージアム33年の軌跡展	長野市
	10月	第60回記念二紀展	東京都立美術館
鎌田 邦宏	4月	第8回春季二紀展	東京銀座画廊美術館
	4月	2006春季徳島二紀展	徳島市シビックセンター
	8月	第21回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第60回記念二紀展	東京都立美術館
上月 佳代	1月	第59回二紀展受賞作家新作展	東京銀座松坂屋別館画廊
	2月	第34回徳島市芸術祭美術展	徳島市シビックセンター
	4月	2006春季徳島二紀展	徳島市シビックセンター
	4月	第8回春季二紀展	東京銀座画廊美術館
	8月	第21回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第60回記念二紀展	東京都立美術館
佐藤 隆	8月	創立35周年記念兵庫県彫刻家連盟展：賛助出品	神戸原田の森ギャラリー
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
濱口 恵	1月	第39回モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ
	2月	第34回徳島市芸術祭美術展：招待出品	徳島市シビックセンター
	4月	第56回モダンアート展：会員出品	東京都立美術館
	8月	創立35周年記念兵庫県彫刻家連盟展：賛助出品	神戸原田の森ギャラリー
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
松永 勉	1月	第34回徳島市芸術祭美術展：招待出品	徳島市シビックセンター
	3月	中学生用美術教科書副読本「新しい美術資料表現鑑賞」に 「風景の舞奏」が掲載。	浜島書店刊
	3月	徳島市西精工(株)玄関前にモニュメント「循環」設置	
	8月	創立35周年記念兵庫県彫刻家連盟展：賛助出品	神戸原田の森ギャラリー
	9月	第61回行動美術展：会員出品	東京都立美術館
	9月	第61回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪府立美術館
	9月～11月	第44回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島市中央公園
東 光司	4月	ストーンミュージアム石の彫刻展2006	高松市庵治町
	4月	第56回モダンアート展：入選	東京都立美術館
	5月	第7回石のさとフェスティバル「石 の彫刻コンクール」奨励賞	高松市庵治町
長岡 強	3月	第82回白日展：会員出品	東京都立美術館

	4月	第36回日彫展：会員出品	東京都立美術館
	11月	第38回日展出品：委嘱	東京都立美術館
林 一美	4月	彫美会展	四電プラザギャラリー



# 美術工芸部

部会長 山上 馨

## 年間展望

◎第61回県美術展（平成18年10月4日～9日 アスティとくしま「多目的ホール」）

平成18年（2006年）第61回県美術展・美術工芸部門の応募点数は246点、出品者は171人であった。前回展に比べて応募点数が19点、出品者数で12名の増加となり盛況を呈した。審査は二階席の出品者が見守る中、極めて厳正に各ジャンルからの賞候補30余点から入賞9点（特選2点、準特選4点、奨励賞3点）が選ばれ、入選138点と無審査出品12点を加えて、総展示作品は159点となった。

今回の審査員は東京芸術大学教授の島田文雄先生にお願いした。審査の総評としては、「3年ぶり4回目の審査だが、前回よりも非常にレベルが上がっている。造形的に魅力ある作品がたくさんあって、選ぶのに大変苦労した。自己表現がなされているか、どんな作品にしようとしたのかなど、その人の意図や主張がみえるかどうかをポイントに審査した。

四国放送社長賞の里見正威「幻海」（陶芸）は造形的に非常に力強く、大きさを感じさせる作品だ。貝殻をイメージしているのだろうか、渦巻いたような形が広がり表現している。模様もよく考えられていて、釉薬をととても上手にを使って焼き上げている点に感心した。釉薬の流れ具合がちょうどよいところで窯の火を止めているようで、作者は非常に実力がある人だろう。

特選の加藤伴江「大地の鼓動」（ガラス）は、石膏の型にガラスを流し込んで作り上げたのだろうが、これ程の量のガラスの塊を割れることなく冷ますのは非常に大変な作業だ。高い技術と知識を持っている人の作品といえる。ガラスの特性を十分に生かし切った形で、その柔らかさや重み、強さがうまく表現されている。

創作活動では、自分が何を表現しようとしているかをしっかりと見つめることが大切だ。その強烈な思いは作品にストレートに表れる。そして、自分が持っている技術や技量をもっと研鑽し、追求し、宝物を作るような気持ちで取り組み、さらにレベルアップできるはずだ。

全体的には、どこの県展でも同じだが、押し花の作品が多くなっている。徳島は藍染が特産なので藍染の作家がもっと増えることを期待したい。」ということであった。

以上第61回徳島県美術展図録から審査員総評を転載させていただいた。内容は特選作

品の評価が大半であるが、他の受賞作品、入選作品に通ずる審査員の熱いメッセージを感じたからである。また、審査の後のフロアでの審査員講評は出品者への激励と表現の心得など示唆に富んだお話であった。深甚なる謝意を表したいものである。

特選特別賞（四国放送社長賞）	里見 正威「幻海」
特選	加藤 伴江「大地の鼓動」
準特選	美浪 文「森がささやく」
〃	斎藤 和彦「ケニアの風」
〃	岡部 育子「System」
〃	太田 裕子「快艶」
奨励賞	高木喜代香「滝、落つ」
〃	吉田 敏明「風雲」
〃	谷口 治「胴丸5段重、箱揃、布目塗り」

## 会員消息

(県展を除く)

天野 和子	・日本現代工芸展	3月	東京都立美術館
	・第24回もめんの詩パッチワークキルト展	9月	文化の森県立近代美術館
	・第34回県手工芸展	10月	文化の森県立近代美術館
	・第4回徳島版画展	10月	文化の森県立近代美術館
大貝 貞雄	・第34回徳島市芸術祭美術展（徳島市長賞）	2月	徳島市シビックセンター
	・第34回県手工芸展（優秀賞）	10月	文化の森県立近代美術館
大貝 寿子	・第34回徳島市芸術祭美術展	2月	徳島市シビックセンター
	・第34回県手工芸展（賛助出品）	10月	文化の森県立近代美術館
越 由子	・U.S.Aワールドキルトコンペティション	8月	マンチェスター市（他）
	・第38回日展	11月	東京都立美術館
多智花佐代子	・第45回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第38回日展	11月	東京都立美術館
	・第44回現代工芸美術家協会四国会展	11月	高松・三越
九十九健二	・第77回第一美術展	5月	東京都立美術館
富田ちえ子	・染色すなご会展示会	5月	牟礼町石の民族資料館
富永 裕子	・テーブルウェア大賞	2月	東京ドーム
	・ガラス個展	6月	ドクター・エンドー
	・第97回徳島県女流美術家協会展「あいの風」	9月	東京銀座O S画廊
永山昭一郎	・徳島陶芸会第30回創作陶芸展	7月	徳島市シビックセンター

西 浩子	・第96回徳島県女流美術家協会展	4月	阿波銀プラザ
	・第97回徳島県女流美術家協会展「あいの風」	9月	東京銀座OS画廊
日浦 久代	・第96回徳島県女流美術家協会展	4月	阿波銀プラザ
	・第35回徳島・仙台文化交流美術展	6月	せんだいメディアテーク
	・第97回徳島県女流美術家協会展「あいの風」	9月	東京銀座OS画廊
村上 正典 (H19. 1. 31死去)	・徳島の陶芸展	4月	阿波銀プラザ
	・創作陶芸展	7月	徳島市シビックセンター
	・正倫会陶芸展	9月	ヨンデンプラザ徳島
森 賢一	・第45回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第38回日展	11月	東京都立美術館
	・第44回現代工芸美術家協会四国会展	11月	高松・三越
山田 和子	・第16回日工会展（日工会賞）	6月	東京・日本橋高島屋
	・(社)日本七宝作家協会展（奨励賞）	7月	東京・上野の森美術館
	・第38回日展	11月	東京都立美術館
山本 和子	・第10回創手人染展	1月	広島県立美術館
	・第45回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第7回全国阿波藍染織作家協会展	9月	下関市立美術館
	・第17回全国現代クラフト展	10月	阿波銀プラザ
	・第44回現代工芸美術家協会四国会展	11月	高松・三越
吉田 陽子	・第96回徳島県女流美術家協会展	4月	阿波銀プラザ
	・第35回徳島・仙台文化交流美術展	6月	せんだいメディアテーク
	・第2回松慶塾作陶展	6月	ヨンデンプラザ徳島
	・第97回徳島県女流美術家協会展「あいの風」	9月	東京銀座OS画廊
	・陶芸文化振興財団展	10月	埼玉県立近代美術館
四十宮年代	・第34回徳島市芸術祭美術展（特別出品）	2月	徳島市シビックセンター
	・第41回中部染色展	8月	愛知県芸術文化センター
	・第21回国民文化祭やまぐち2006	11月	下関市立美術館
龍木 秀子	・第32回インターナショナルキルトフェスティバル	11月	テキサス州ヒューストン・ジョージ・ブライコンベンションセンター
田村栄一郎	・田村栄一郎作陶展（個展）	4月	徳島そごう美術画廊
	・第28回日本新工芸展	6月	東京・上野の森美術館
	・近畿・中国・四国伝統産業品展特別企画展（徳島県知事賞）	11月	京都伝統産業会館
	・第38回日展	11月	東京都立美術館

田村 純子	・第28回日本新工芸展（よみうりテレビ賞）	6月	東京・上野の森美術館
	・第38回日展	11月	東京都立美術館
田村 祐子	・第16回日工会展	6月	東京・日本橋高島屋
矢野 款一	・日本工芸会正会員展	5月	東京・日本橋三越
	・陶芸三人展	11月	徳島市シビックセンター
	・日本工芸会四国支部展（審査員出品）	11月	高松・三越
斎藤 和彦	・日本七宝作家協会国際展	7月	東京・上野の森美術館
青木 房江	・布絵展	7月	四電エネルギープラザ阿南
小栗加代子	・現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・インターナショナルキルトフェスティバル	10月	米国ヒューストン
	・インターナショナルキルトウィーク	11月	横浜国際展示場
	・第21回国民文化祭やまぐち2006	11月	下関市立美術館
	・世界のキルト作家100人展	11月	オーストラリア各地美術館
橋 恵	・橋恵藍染作品展	9月	ヨンデンプラザ徳島
松下 慶一	・松下慶一作陶展（個展）	11月	丸亀市88ギャラリー
	・日本工芸会四国支部展	11月	高松・三越
	・四国の陶芸展	12月	愛媛県砥部町
丸居 哲雄	・エナジー展	9月	文化の森21世紀館
	・上板町美術愛好会展	11月	上板町・技の館
川真田 弘	・川真田弘藍型絵染展	9月	函館市・ギャラリー村岡
	・藍染講習会	10月	北海道茅部郡森町「緑の村」
藤井 哲信	・第3回KOGANEZAKI器のかたち・現代ガラス展	4月	競輪クリスタルパークガラスミュージアム
	・第46回日本クラフト展	4月	東京・丸ビルホール
	・ピアマグランカイ vol 6	4月	札幌・芸術の森美術館
	・藤井哲信ガラス展	5月	松山市・ギャラリーリブアート
	・全国手づくりガラス展	6月	石川県地場産業振興センター
	・レースガラスの魅力展	7月	石川県能登島ガラス美術館
	・2006 伊丹国際クラフト展	10月	伊丹市立工芸センター
	・第20回高岡クラフト展（奨励賞）	10月	大和高岡店
南 泰樹	・第2回松慶塾作陶展	6月	ヨンデンプラザ徳島
	・第34回全国公募手工芸展	10月	文化の森県立近代美術館
	・高越陶芸クラブ展	11月	貞光ゆうゆう館
	・吉野川市文化祭	11月	鴨島町文化センター

南 郁代	・ 第 2 回松慶塾作陶展	6 月	ヨンデンプラザ徳島
	・ 第34回全国公募手工芸展	10月	文化の森県立近代美術館
	・ 高越陶芸クラブ展	11月	貞光ゆうゆう館
	・ 吉野川市文化祭	11月	鴨島町文化センター
落久保重利	・ 第21回国民文化祭やまぐち2006陶芸展	11月	山口県萩市旧田中別邸

# 書 道 部

部 会 長 上 田 溪 水

## 年間展望

### ◎第61回県美術展（10月4日～9日 アスティとくしま多目的ホール）

出品総数は813点で、前回展より53点減となり、出品者数も21名減少した。展示数は、特別出品・招待・無鑑査・賛助出品47点と、入賞35点、入選315点を加えた397点が会期中展示された。

今回の審査員は、稲垣菘圃、横山煌平、船本芳雲の三先生で、各審査員の評を抜粋すると、漢字「審査では、古典を十分に学んだ上で、個性にあふれ、芸術的な要素を持ったことを重視した。」仮名「書き手の息遣いが感じられ、運筆に余裕がある作品が境目になった。」近代詩文「線の表現、行間の響き合いや筆の遅速などに持味が出ているものを選んだ。」前衛「入賞作2点は、みずみずしい感性を感じ、心に響くような作品であった。」と、それぞれご指導があった。

アスティとくしまで7部門同時に開催されたことは、いろんな意味でよかったと思う。

### ◎社中展・個展等

○草石・真堂書展	ヨンデンプラザ徳島	1月22日～	23日
○第40回清潮記念展	阿南市文化会館	3月3日～	5日
○東南光書作展	文学書道館	3月9日～	12日
○第26回書研社展	徳島市シビックセンター	3月10日～	12日
○第19回長玄書道会展	徳島市シビックセンター	4月1日～	3日
○第51回成蹊書道会展	徳島市シビックセンター	4月12日～	14日
○第5回玲光会書展	阿南市文化会館	4月28日～	30日
○第13回大耿会書作展	徳島市シビックセンター	5月21日～	22日
○第24回双愛会書作展	徳島市シビックセンター	6月9日～	11日
○第31回東玄書道会展	阿波銀プラザ	6月16日～	19日
○第36回直心会書展	文学書道館	6月23日～	25日
○墨遊会書展	ヨンデンプラザ池田	7月28日～	30日
○第1回流輝会展	ヨンデンプラザ徳島	9月8日～	10日
○第69回書芸院展	徳島市シビックセンター	8月31日～	9月3日
○第35回雪心会書作展	徳島市シビックセンター	9月22日～	24日

○春琴とその仲間たち展	ふれあい健康館	10月1日～	29日
○第5回一心会書展	文学書道館	10月6日～	8日
○第2回楽悠会書展	文学書道館	10月11日～	15日
○第3回五果書展	文学書道館	10月13日～	15日
○第18回陸月会書展	徳島市シビックセンター	10月28日～	30日
○向井京子三世代書展	協町うだつ通・時代屋	10月30日～11月30日	
○第12回六書会書展	ヨンデンプラザ徳島	11月24日～	26日
○第11回尚真書展	阿波銀プラザ	12月1日～	3日
○第10回せせらぎ書展	文学書道館	12月8日～	10日
○第21回正鋒会書展	徳島市シビックセンター	12月9日～	11日
○第36回光輪社書作展	文学書道館	12月15日～	17日
○第20回泉心会書作展	阿波銀プラザ	12月22日～	24日

## 個人消息 (県展・社中展は除く)

### 役員で出品した人・入賞者 (平成18年1月～12月)

#### ○第47回太玄会書展 (東京都美術館 1/11～15)

役員 春藤大耿・大櫛一峰・岡島順子・古郷弘江・近藤静苑・下村清子  
 鈴木恵理・瀬藤豊子・富久鳴泉・中尾勝子・中西甫子・西宇明美  
 廣島章子・吉田美重子・木村弘子・小出圭子・田村昇鶴・南 溪石

太玄賞 下村清子

奨励賞 春藤玉秀・木村弘子

新人賞 馬居汀香

推薦 田上洋香

特選 春藤真紀

#### ○第60回日本書芸院2月展 (大阪市美術館 2/14～19)

4月展 (大阪市美術館 4/11～16)

役員展 (大阪国際会議場 4/15～30)

常務理事 勝瀬景流

評議員 東 南光・伊丹東龍

一科審査員 東 弥生・上田溪水・宇山泰鳳・河野真流・薄田玲泉・隅田英二  
 高田青蓮・能仁華瑤・山口華城・吉田素川・米澤東籬

二科審査員 阿部珠雪・青木東原・井上虹雨・上田輝芳・沖田唐谷・川村春琴  
 倉本景雨・小西玉翠・小松美佳・近藤聖邨・清水桂月・島田小園

豊浦春光・長江頌石・長谷美峰・鳩成青嶂・福永美泉・福家美鵬  
藤村柳葉・古川秀蕙・松永翠月・美馬幾美賀・宮守崇流  
向井京子・森 光翔・八木藍玉・矢部知子・米澤東籬

大 賞 亀石文苑・清水桂月・長江頌石・矢部知子・宮守崇流

特別賞 赤川景流・辻 尚子・宇山耿鶴・藤山真由里・谷 典子

特 選 坂口和美・野口有香・後藤佳美・橘 美希・永岡光洸・須見智香  
伊藤景風

二科推薦 河野美鶴

○第42回創玄展（東京都美術館・産業プラザPIO 3 / 7～12）

名 譽 会 員 荒井天鶴

一科審査員 荒井彭仙・玉城乾香・長原皋聖・浜 佳香

二科審査員 佐原和清・永松春苑・芝原醒鶴・多田清芳

学生審査員 岩本志豪・大島溪石・坂本霄風・大西清葩・丸岡香貞

特 選 吉田和婉

一科秀逸 木田史香・佐藤恵和・矢野照代・野田香洋・野口皐玖・玉城乾舞  
山崎朱桜

二科賞 樗山彩光・桐生美風・犬伏靖江・定本宏美

○第34回日本の書展（大阪国際会議場 3 / 21～24）

招 待 東 南光・荒井彭仙・伊丹東龍・勝瀬景流・春藤大耿・薄田玲泉

秀 拔 選 荒井彭仙・河野真流・川村春琴・清水桂月・武市鳴雲・長江頌石  
能仁華瑤・多田清芳・玉城乾香・長原皋聖・浜 佳香・古川秀蕙  
松本深翠・宮守崇流・吉田素川

○第28回日本書道学院展（東京都産業貿易センター 3 / 25～27）

客 員 勝瀬景流

審 査 員 赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・河野真流・倉本景雨・近藤俊流  
薄田玲泉・竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴

大 賞 佐川菁流

読売新聞社賞 宮崎聖風

特 別 賞 遠藤玉流

○第29回日本かな書展（東京・日本橋高島屋 5 / 10～15）

副 理 事 長 藤若美風

正 会 員 松本清香・増田愛子・長谷美峰

○第42回太玄会役員書展（東京セントラル美術館 5 / 9～13）



出品 春藤大耿・鈴木恵理

○現代の詩歌と書の世界（東京セントラル美術館 6 / 6～11）

選 拔 多田清芳

○第32回創玄現代書展（東京セントラル美術館 10 / 31～11 / 5）

選 拔 入 選 若林雅節・岡崎啓香

○第58回毎日書道展 東京展（東京都美術館 7 / 8～11）

四国展（愛媛県立美術館 8 / 9～13）

参 与 荒井天鶴

審 査 会 員 荒井彭仙

会 員 永松春苑・佐原和清・長原皋聖・芝原醒鶴・玉城乾香・浜 佳香  
多田清芳

会 友 朝三皐如

秀 作 賞 岩本志豪・丸岡香貞・大津明美・中山観山

佳 作 賞 岸 緑香・糸田川皐妙・長尾香蘭・木田史香

○第23回産経国際書展（池袋サンシャインシティ文化会館 7 / 22～8 / 30）

専 管 理 事 藤若美風

審 査 会 員 松本清香・増田愛子

○水穂書展（京都市立美術館 8 / 2～6）

常 任 理 事 向井京子

○第23回読売書法展 東京展（東京都美術館 8 / 13～19）

四国展（高松市美術館 11 / 17～19）

常 任 理 事 勝瀬景流

理 事 東 南光・東 弥生・伊丹東龍・西岡五峰・薄田玲泉・張 美鶴

幹 事 上田溪水・上田輝芳・宇山泰鳳・河野真流・亀石文苑・豊浦春光  
倉本景雨・近藤聖邨・清水桂月・春藤大耿・隅田英二・高田青蓮  
竹内虹舟・長江頌石・新居藍州・能仁華瑤・長谷美峰・坂東準子  
福永美泉・福家美鵬・古川秀蕙・宮守崇流・山口華城・吉田素川  
竹田和代

評 議 員 井上虹雨・辻 尚子・豊浦春光・森 光翔・山本景琴・米澤東籬  
松永翠月・加村喜美子・向井京子

俊 英 賞 能仁華瑤

奨 励 賞 辻 紅雲・井上虹雨・竹田和代・向井京子

特 選 河野美鶴・駒田水洗・遠藤玉流・一ツ松真弓・林 美雪

秀 逸 馬居汀香・吉平伶光・須見智香・阿部博子・井上小由合・安原照代  
藤井三樹子・田中子葉・吉田翠彩・中尾勝子・吉田靖流・遠藤惠泉  
背川景玲・酒井萌艸・西野涌泉

会 友 浅川蘭舟・生田高清・青木東原・八木藍玉・酒井橘華・西岡咲子  
丸岡智子・田村富士子・小林青藤・鈴木惠理

○第38回日展（東京都美術館 11／2～21）

委 嘱 勝瀬景流

入 選 東 南光・東 弥生・伊丹東龍・亀石文苑・河野真流・薄田玲泉  
竹内虹舟・西岡五峰・能仁華瑤・福永美泉・米澤東籬

○第21回寒玉会員展（大阪市美術館 11月）

常任総務 長谷美峰

○第46回環社展（大阪市美術館 11／28～12／3）

役 員 東 南光・上田溪水・春藤大耿・吉田素川・清水桂月・東甫白亭  
豊浦春光・長江頌石・松本深翠・馬居汀香・駒田水洗・武市鳴雲  
能仁華瑤・岡島朱伯・小西玉翠・鈴木惠理・高井春華・田上洋香  
谷口清水・花本清香・弘田長風・藤田喜美・松浦翠篁・松永翠月  
馬淵直枝・八木藍玉・吉平伶光・伊藤景風・上田美智・大本華越  
片山芳明・鈴木翠雲・春藤玉秀

特 別 賞 野田有香・林 美雪

優 秀 賞 片山芳明・大本華越

読 売 賞 河野多美

会 長 賞 加藤知子

特 選 宇山春蘭・谷 典子・折上和美・高原智世・谷本真由美  
森本真由美

佳 作 久保光瑤・春藤真紀

# デザイン部

部会長 坂本 三千一

## 年間展望

### ◎第61回徳島県美術展（10月4日～10月9日（祝・日）アスティとくしま

郷土文化会館が耐震工事のため変更し、アスティ徳島で全部門と「子ども美術展」も併設、開催された。

応募数106点（74名）特選・徳島県知事賞に四十宮隆志、昨年の60回記念展、記念大賞（県議会議会賞）に続いている連続受賞です。準特選・敷島のり子も、去年は特選の受賞であった。

入選・四十宮隆志3点、敷島のり子・北島豊嗣・西林良枝の会員が各1点入っている。

今年の審査員は、多摩美大教授・新島実先生にお願いした。審査は徳島新聞社の会議室で、いつもより広いスペースであった審査会場いっぱい作品を並べ、右に左に跳ぶように熱心に審査をして頂いた。県展の審査は初めてであったようです。

第22回国民文化祭の公式ポスターも、県内で募集した「おどる国文祭」三大ポスターの審査も新島先生でした。

入選以外の出品者は、特別出品・坂本三千一、招待・斎藤繁次、坂野美恵子、無鑑査・澤口功、斎藤志津子、斎藤剛、賛助・福井章。

### ◎日本文化デザイン会議（18年10月13日～15日(日)）

第28回日本文化デザイン会議'06 in とくしま「天水」が「アスティとくしま」を主会場に、徳島市、鳴門市、吉野川市、神山町で開かれた。19年10月に開かれる「おどる国文祭」のイベントで、各界で活躍する文化人、著名人100人が徳島で、シンポジウムやワークショップを行った。会員の敷島のり子さんが、徳島実行委員会の副会長の大役をこなしていた。

### ◎部会展「FACE」（2006年10月13日～20日 クレメントプラザ4Fクレメント広場）

恒例の部会展を、徳島県民文化祭協賛で徳島新聞社、NHK徳島放送局、四国放送、美術家協会の後援で開催した。

今回はテーマを「FACE」会員それぞれの感性で、FACEと向合いデザインした作品は18名の35点。入場者も936人で大成功と言える。マスコミも取上げてくれた。13日の徳島新聞夕刊に写真入りの記事で、四国放送ラジオ・テレビで告知のPR、14日のNH

Kテレビ朝のローカルニュースで放映。ご協力いただいている、会場のクレメントプラザの館内ポスターにも紹介された。プレ国文祭のスタンプラリーにも参加した。

### ◎第22回国文化祭・美術展ポスター（12月）

県国文化祭課より、美術展作品募集ポスター制作の依頼があり、デザイン部会で受注することになり、部会内のコンペを実施、県の選考で四十宮隆志の作品が選ばれた。

### ◎放美展

会場・郷土文化会館の耐震工事のため18年の15回展は延期、19年に15回展を開催する。

## 会員消息

（県展関係は除く。順不同）

### ■澤口 功

- 2月 第34回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（徳島市シビックセンター）
- 10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）
- 12月 第35回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

### ■四十宮隆志

- 6月 第8回世界ポスタートリエナーレトヤマ2006（富山県立近代美術館）  
グラフィックデザイン「核の傘」入選（展示収蔵）（全日空ホテル）  
開会式・レセプション参加
- 7月 今日の日本美術／モナコフェスティバル（モナコ公園）  
グラフィックデザイン「命のアカシ」衝動の金賞受賞（グリマルディフォーラムMonaco）  
開会式・レセプション参加  
“どきん” 鳴教大イメージフォトクラブ展（阿波銀プラザ）  
グラフィックデザイン 5点出品
- 10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」2点出品（ホテルクレメント徳島プラザ）  
Graphic Design in Japan 2007（JAGDA年鑑）グラフィックデザイン 8点出品
- 12月 2006日豪交流年公式イベント／ワイン・エチケット・アートショー（オーストラリア）  
グラフィックデザイン（ワインラベル）1点出品（メルボルン／フェデレーション・スクエア）

### ■天羽 宏美

- 7月 天羽宏美個展（徳島駅前：森珈琲店）

■福井 章

- ・徳島新聞朝刊「阿波路イラストぶらり旅」絵と小文（毎月1回連載）
- ・徳島新聞論田専売所「TOWN NEWSおおみこ」わが町スケッチ（12月まで連載）
- ・とくしま“あい”ランド推進協議会情報誌「いのち輝く」イラストシリーズ（年3回連載）
- ・徳島調停協会連合会会報「和と情理」イラストシリーズ（年2回連載）
- ・'07徳島新聞正月号「春のとくしま道めぐり」イラスト37点掲載

1月～ 第22回国民文化祭徳島県実行委員会美術展企画委員会委員

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

12月 第35回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

■吉本 實

1月～ 第22回国民文化祭・とくしま2007基本デザインガイド制作（国民文化祭徳島県実行委員会）周知グッズ、ツール制作  
（デザイン企画制作プロジェクトチームメンバー）

6月～11月 世界デザイン会議 にぎわい88（世界文化デザイン会議徳島県実行委員会）（各イベント周知デザイン制作プロジェクトチームメンバー）

8月 徳島県観光ポスター／インターネット投票（県観光企画課）  
エントリーポスターデザイン制作

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

11月 徳島花基金事業／徳島花へんろポスターカレンダー制作（県観光協会）

12月 第35回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品（徳島そごう）

■田中 一郎

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

11月 ヴォーカルグループSoleコンサート

ポスター、チラシ、チケット、プログラム表紙などデザイン

■坂野美恵子

9月 第91回二科展：会員出品（東京都美術館）

その後・・・展

四国大学短期大学部生活科学科デザイン専攻OB展出品（四国大学交流プラザ）

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

■生田 典子

5月 四国大学短期大学部ビジネスコミュニケーション  
パンフレット表紙制作

9月 その後・・・展

四国大学短期大学部生活科学科デザイン専攻OB展出品（四国大学交流プラザ）

■斎藤 繁次

2月 斎藤繁次個展（ドクターエンドー徳島）

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

11月 斎藤繁次・志津子展（ドクターエンドー鳴門）

藍美展出品（藍住町福祉センター）

■斎藤志津子

11月 斎藤繁次・志津子展（ドクターエンドー鳴門）

■敷島のり子

4月 第8回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2006入選

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

■坂本三千一

1月～ 第22回国民文化祭徳島県実行委員会企画委員（県国民文化祭課）

3月 第30回県文化協会チャリティフェア：イラスト出品（ヨンデンプラザ徳島）  
第22回国民文化祭PR大使選考会（県国民文化祭課）

6月 徳島県平和ポスター審査会（県総務課）

日本グラフィックデザイナー協会総会出席（サンポート香川）

9月 第2回こども県展審査会（県こども美術展実行委員会）

10月 県美術家協会デザイン部会展「Face」出品（ホテルクレメント徳島プラザ）

11月 国民文化祭やまぐち2006視察（県国民文化祭課）

三好昭一郎喜寿記念日本史論集（三部作）表紙カバーデザイン

12月 第22回国民文化祭“おどる国文祭”三大テーマポスター審査会（県国民文化祭課）

経済5団体「新年祝賀会」参加者名簿表紙デザイン（県中小企業団体中央会）

# 第61回県展審査評

## [日本画]

審査員 宮 廻 正 明  
(東京芸大教授)

審査して感じたのは、全体に色使いが明るく、徳島という地方のもつ風土に思いを込めたものもあり、バリエーションにあふれていたことだ。

絵というのは短所を直すのではなく、長所をどんどん伸ばしていけばいい。数学や国語と違って、記憶ではなく感性。色彩でもモチーフでも、「日本画」という型にはまらずに“自分はこうしたい”という前向きの姿勢で、自分なりの表現を追求してほしい。

その点で、県議会議長賞の坂谷子「凜」は、ハスの葉を緑を使わないで、赤で表現した点が素晴らしい。“形をしっかりと描いて、色で遊ぶ”という、絵を面白くする大切な要素が網羅された。色で遊んだことで、見る人のイメージが広がる作品だ。しかも画面の真ん中では、ハスの花が散っていく一方で、その香りが上方に昇華する様子が描き込まれ、人生のはかなさと妖艶さが重なり合わせて表現された。

特選の反田卓「春宵」は、桜の花びらを描かないで桜を表現した点が、非常に魅力的な作品だ。ぼんぼりで明かりをとって、あとは全部シルエットにしたことで、夜桜の雰囲気がよく出た。造形的にも隅々までしっかりしていて、木の枝など非常に丁寧に描いている。これほど描写力のある人が地方にいるとは驚きだ。

2作とも、規定いっぱい（百号相当）の大きさを十分に生かした大作で、それを高い描写力が支えている。やはり絵を上手に描くためには、よく見て丁寧に描くこと。山を描くには木を、木を描くには葉を、さらに葉脈を描く。1本1本の線を丁寧に引く積み重ねが上達の近道で、その手間を自分が楽しみに感じられれば、どんな大きな作品も描けるようになるだろう。

## [洋画]

審査員 山 本 文 彦  
(二紀会常任理事)

誠実かつ充実した絵が多かった。しかし、新しい表現への独創性を前面に出す覇気が不足している印象を受けたのも事実だ。それぞれの教室のカラーはあってもいいが、個性を強調する意欲を見せてほしい。

県教育長賞の二條均「静物」は、自分の心に触れたものを集めてきて、しみじみと描いた点に好感が持てる。心の繊細さや静けさをうまく表現した。空間の中にカボチャとカラスウリ…。描かれている以上に空気や温度のようなものを感じた。緑土色を用いたセピア写真のような色合いも郷愁を誘う。こまかな明暗と色調を拾いながら、人にある種の癒しを与えている。空間に当たる部分を霧のような無限の広がりにして、モチーフだけを中心に浮かび上がらせることに成功している。

特選の西川敦子「積む」は、港の片隅に積まれたドラム缶という物そのものの色を画面に持ち込んだダイナミックな表現が魅力的だ。色や形とマチエールを存分に駆使して、心の精いっぱい叫びを描いた。ドラム缶に描かれたアルファベットや数字からも、何かある種の意味が伝わってくる。そんな試みを自由自在にやった思い切りのよさがいい。

特選の瀧川勝雄「生命—誕生」は、青を基調とした木版画。見る人にイメージを鮮明に伝える力がある。果物のような、卵子のような何かを思わせる楕円形の物体を、斜めに浮遊しているように配置し、誕生という言葉とうまく結びつけた。墨を水面に流したような背景のマーブルリングや、色の対比や相関の関係をうまく取り入れた技法にも、強いインパクトを感じた。

絵は心の表現だ。想像力を養いながらドローイングの練習を重ね、今までの自分を越えて一歩踏み出す創造の勇気を持ってほしい。

## [写 真]

審査員 江 成 常 夫  
(九州産業大学大学院教授)

県展の審査は3回目。2003年や昨年と比べて、正統派で内容豊かな作品が多かったように思う。テーマやモチーフは、人間、自然、海外など多岐にわたっていた。上位の作品は技術的に優れていた上、思想も込められており、レベルが高かった。

審査員が異なれば、採る作品も違う。私の審査基準は、美しくて技巧に優れたものより、そこに込められた心に重心を置いている。それが芸術の普遍的な価値だからである。

徳島市長賞の平野史子「今年も母に逢（あ）えた」（4枚組）は、他者への思いやり、そして母親に対する慈しみの心が強く伝わってくる作品。組み写真は、写真の内容が重複したり足りなかったりしがちだが、この作品はすき間なく構成されている。

特選・郡利明「哀（かな）しい目」は、地球市民という視点に立った作品。発展途上国の黒人の子供の目が、豊かな暮らしをする私たちに「人間のあり方」を強く訴えかけてくる。



特選・国見良幸「捕獲」(3枚組)は、目に見えない、心の裏にある不安や影といったものを示し、犯罪が頻発する社会や時代へのメッセージが感じられる。技術的にも自然光で撮影し、卓越したものがある。

特選・櫛淵紳哉「Street」は闇の中に自分のイメージを投影し、作者固有の世界を表現している。非常にクリエイティブな作品だ。

写真には記録と創造という二つの面があり、表現の間口は広い。そして時代との関係性を持ち、社会の鏡として捉えることができる。他のカテゴリーにはない力だ。これを念頭においてレンズを向け、固有のメッセージを持った作品を目指してほしい。

## [彫 刻]

審査員 鈴木久雄  
(武蔵野美大教授)

彫刻は、材質に裏付けられた形状を自分なりにどう表現していくのが重要。審査では、頭の中のイメージをその材質でなければできない表現にまで落とし込んでいる作品を選んだ。

徳島新聞社長賞の居上真人「海の陽気な仲間たち」は、多様な形の魚を組み合わせ、2点で一つの作品を構成することで、空間の中にリズムを生み出している。石の種類や彫り方もバラエティーに富んでおり、すっきりとまとめ上げていてかなりのキャリアを感じる。欲をいえば、エイの置き方がやや安易で、作品全体に軽い印象を与えてしまった。石の素朴な形状の面白さを生かすのが作者の持ち味。そこを煮詰めていくと、さらにいい作品が作れるだろう。

準特選の木村大志「青黛」は動物の頭の彩色木彫で、この材質でなければ作れない形状で。会場で目が真っ先に引き付けられる求心力のある作品だ。今回の出品作の中で最も豊かな感性を感じた。ただ、フォルムを後ろに流すというとらえ方がやや甘い。もう一歩、表現を突き詰めてほしかった。

同じく準特選の米田陽一「M」は、難易度の高い人体をゆったりとした柔らかな感性でとらえている。人体の形状を律儀に追求し過ぎて人の気配がないものが多い中、作品を通して自然な存在を感じさせる。

高校生からは、石膏の人物像が多く出品されていた。どれも誠実さがあり好感を持ったが、表現が生で軽い。対象をよく咀嚼し、それを具体的な形にするまでもう少し見ることの試行錯誤を重ねてほしい。

## [美術工芸]

審査員 島田文雄  
(東京芸大教授)

3年ぶり4回目の審査だが、前回よりも非常にレベルが上がっている。造形的に魅力ある作品がたくさんあって、選ぶのに大変苦勞した。自己表現がなされているか、どんな作品にしようとしたのかなど、その人の意図や主張がみえるかどうかをポイントに審査した。

四国放送社長賞の里見正威「幻海」(陶芸)は造形的に非常に力強く、大きさを感じさせる作品だ。貝殻をイメージしているのだろうか、渦巻いたような形が広がり表現している。模様もよく考えられていて、釉薬をととても上手に使って焼き上げている点に感心した。釉薬の流れ具合がちょうどよいところで窯の火を止めているようで、作者は非常に実力がある人だろう。

特選の加藤伴江「大地の鼓動」(ガラス)は、石膏の型にガラスを流し込んで作り上げたのだろうが、これほどの量のガラスの塊を割れることなく冷ますのは非常に大変な作業だ。高い技術と知識を持っている人の作品といえる。ガラスの特性を十分に生かし切った形で、その柔らかさや重み、強さがうまく表現されている。

創作活動では、自分が何を表現しようとしているのかをしっかりと見つめることが大切だ。その強烈な思いは作品にストレートに表れる。そして、自分が持っている技術や技量をもっと研さんし、追求し、宝物を作るような気持ちで取り組めば、さらにレベルアップできるはずだ。

全体的には、どこの県展でも同じだが、押し花の作品が多くなっている。徳島は藍染が特産なので藍染の作家がもっと増えることを期待したい。

## [書道]

### ●漢字・篆刻

審査員 稲垣菘圃  
(日展参与)

全体の印象として、それぞれの結社・グループの書風がよくみられ、先人の書風をうまく自分のものに消化して、創作していると感じられた。審査では、古典を十分に学んだ上で、個性にあふれ、芸術的要素を持った表現をしているかどうかを重視した。

まず、特選の川村真澄「孟浩然詩」は、大胆な渴筆を生かした墨の濃淡が印象的で、文

字の造形的なデフォルメといい、よく鍛練された作品だ。大小の字を全体にうまくまとめた章法も見事で、抜群の作だ。

同じく特選の米澤司子「高青邱詩」は、金冬心（金農）をかなり書き込んでいる作品だ。格調高い楷書の6行書きを、最後まで呼吸が乱れることなく仕上げしており、見事な集中力だ。

特選の由字典代「劉兼詩」も、明清の王鐸の書風を学んでおり、王鐸の文字の造形や連綿をうまく、自分なりに消化している。リズムカルな連綿による、線質の美しさでみせる作品だ。

特選の駒田澄子「辛愿詩」は、穏健な表現に好印象を受けた。呉昌碩あたりの古典の精神性・造形性をしっかり探究していて、そうした技術的な錬度の高さが自分の感性として表現された。

篆刻部門には感心した。奨励賞の蓑毛真琴「高允句」は、「行物以誠」の4文字の配字が素晴らしく、同じく射場博子「書経」は、書経の言葉から選んだ14文字を、甲骨文で巧みに表現し得た。ともに刀の切れ味、冴えが素晴らしく、古典の印象に学んでいるのがうかがえる。

毛筆も篆刻も古典の学習が基本だが、その雰囲気味わいながら、「創作」を念頭に臨書・模刻をされると、オリジナリティーに富んだ表現ができるようになっていくと思う。

## ●仮名

審査員 横山 煌平  
(日展会員)

徳島での審査は初めてだったが、全体的な水準は非常に高く入落の差はほとんどなかった。そんな中、心に残ったのは、書き手の息遣いが感じられて運筆に余裕がある作品。それが紙一重の境目になった。

県美術家協会賞の詫間勝子「春たちける（古今和歌集より）」は、運筆を楽しむがごとく書き進められた作品。平安中期、仮名を自由に楽しむようになった当時の息吹が感じられる。流麗な筆致で潤渇の絶妙な変化を演出し、立体感を出すことにも成功している。自分の呼吸でこれほどの大作が書けるのは相当な力量だ。薄紫の料紙も幻想的な雰囲気を醸し出しており、作品全体に人を引き付ける強い魅力を感じた。

特選の上田久恵「むさしのや（新古今和歌集より）」は、穂先の効いた引き締まった線を駆使した表現。行の高低や文字の大小、墨の集め方も工夫されており、たいへん見ごたえがある。中央部分を思い切って大きく書いたが、全体としては古典を踏まえた安定的な造形。何より行間の美しさが秀逸で、自然な文字の流れがよく現れている。

強い作品を書こうと無理に形をゆがめたり、強引な続け方をしている作品もあったが、自分で作った造形は運筆が不自然になる。きちんと古典的な要素を踏まえた作品は造形が安定しているので、筆者の呼吸がはっきりと現れる。

自然で安定した表現をするためには、日ごろから臨書を重ね、多様な筆遣いに慣れることが欠かせない。さまざまな古典を学ぶ中で、自分なりの運筆や、その呼吸を会得してほしい。

## ●近代詩文

審査員 船本芳雲  
(書燈社理事長)

入選作品はいずれも、技術がしっかりしているというだけでなく、線に表情があり、行間の響き合いや筆の遅速などに作者の持ち味がよく出ているものを選んだ。

特選の平岡郁子「金子みすゞの詩『葉っぱの赤ちゃん』」は、温かい詩文の内容を柔らかな筆致でぬくもりのある世界を作り出している。一見平易で何げない表現方法のように思えるが、非常に格調高い。墨の色もよく考えられていて好感を持った。見るものの足を止め、心の深い部分に訴えかけてくるような力を持っている。

同じく特選の田淵元博「中原中也の詩『盲目の秋』」は筆の操作が巧みで高いレベルの作品。これまでに相当の量を書き込んできたのではないか。墨の濃淡、筆の潤濁もしっかりと自分のものにできている。欲をいえば、もう少し筆の割れを控えめにした方がよいと思う部分もあった。ある程度水準以上の作品を常に書けるといふ実力を感じさせる。

美しくまとまってはいるけれども、雰囲気似た類型作品が多かった。もう少し自分なりの表現方法にこだわり、“個”が前面に押し出された冒険心のある、新しさや勢いを感じさせる作品を期待したい。

しかし、全体的にみれば、他県の県展と比べて非常に質が高く、入選作を決めるのに苦労した。入賞も紙一重の差。審査員の好みにも左右されるので、今回惜しくも落選した人は来年もぜひ挑戦してほしい。

## ●前衛

入賞作2点は、いずれもみずみずしい感性を感じ、見るものの心に響いてくるような作品。古典への造詣が深く、書をよく研究しているという印象を持った。

準特選の中川博雅「爵」には、心が浮きたつような明るさやユーモアが感じられた。動物を連想させるような造形が、見るもののイメージをかき立てる。紙を深く切り込んでいくような鋭い線質も素晴らしい。

奨励賞の中川富量「圓」は、人の心の奥にある重いわだかまりを感じさせる作品。黒の中に残した白のバランスも実に巧みで、作品自体が大きな目となって世の中をじっと見つめているかのようで、作者の独創性も存分に出ている。

前衛は感性や技術を含め、人とどれだけ違う表現、つまり独創性があるかが重要。そのためには、表現方法だけではなく、墨の濃度や紙の材質など用具用材にもこだわりを持ってほしい。

## [デザイン]

審査員 新 島 実  
(武蔵野美大教授)

伝えたいメッセージが何なのかを解釈し、どれだけ明確に表現できているか。上手、下手ではなく、送ろうとしている具体的なメッセージがストレートに伝わってくる作品を選んだ。

県知事賞の四十宮隆志「FACE〈泣く〉」は力強い構成。強いメッセージ性があり、それを白黒でうまく処理している。日ごろ見慣れた街や道路といった風景を撮影し、同じ写真を2枚、対称に組み合わせたもので、よく見ると中央に泣いているような人の顔が浮かび上がっている。普段は見逃されがちな風景にもかかわらず、コラージュすることでそのイメージを劇的に変化させたところがうまい。

特選の長宗瞳「Tendency of people today (現代人の傾向)」。髪の毛を新聞紙でコラージュするというアイデアがよかった。われわれにはさまざまな情報が入るが、それらから身を守るすべを持っていないということを実にうまく伝えている。柔らかな雰囲気でもいい。完成度の面ではこれからだが、構成やレタリングの力を磨いていけば、さらに伸びるだろう。

今回は高校生も多く出品していたようだが、全体的になかなかレベルは高く、何とかメッセージを伝えようとする努力が見て取れた。入選作は、その上に技術的な要素が備わった作品を選んだ。

ただ、難しいテーマに勇敢にチャレンジした作品では、伝えたいことを盛り込みすぎて、結果的に主張が薄れてしまった作品も目立った。盛り込む要素は理想的には一つ。それが難しいのなら二つか三つを心がけてほしい。

第61回徳島県美術展（県展）公募規定

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン
搬入日		10月1日	9月30日	9月24日	10月1日	10月1日	9月29日	9月24日
搬入先		アスティとくしま		徳島新聞社	アスティとくしま			徳島新聞社
審査日		10月1日	10月1日	9月24日	10月1日	10月1日	9月30日	9月24日
審査員		宮廻 正明	山本文彦	江成 常夫	鈴木 久雄	島田 文雄	稲垣 稔 横山 本 船 芳	新島 実
出品料		協会員 1点目 3,500円		その他の方 4,500円	2点目からはすべて 1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・未公開作品に限る</li> <li>・点数は制限なし</li> <li>・小・中学校在学者は出品できない</li> <li>・72.7cm×50.0cm(額縁を除いて)以上でタテ、ヨコ190cm(額縁を含む)以内(ガラス・アクリル不可)</li> <li>・吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>・20号から60号まで(水彩は20号以上、版画は10号以上とする)</li> <li>・額</li> <li>・吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>・組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印画に限る)全倍まで</li> <li>・無鑑査以上は画面サイズ半切以上、全倍までで単写真に限る</li> <li>・パネル張り(組写真は1パネル(90×180cm以内)に全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>・高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内</li> <li>・材料は自由、展示可能なものに限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>・大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内)</li> <li>・木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等</li> <li>・展示できる用具をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>半切又は全紙横<math>\frac{1}{2}</math>以上、仕上がり面積が<math>1.47\text{m}^2</math>(16平方尺)以内、縦・横自由</li> <li>巻子本・帖(40×300cm以内)</li> <li>篆刻は印影(タテ39cm×ヨコ30cm以内)で額装に限る(例) 61cm(2尺)×242cm(8尺)枠張 79cm(2.6尺)×181cm(6尺)枠張 91cm(3尺)×161cm(5.3尺)枠張 121cm(4尺)×121cm(4尺)枠張</li> <li>半切・全紙<math>\frac{1}{2}</math>・聯落まで額装</li> <li>アクリル入りでもよい</li> <li>無鑑査以上は半切以内</li> <li>・部門は漢字(篆刻)・仮名・近代詩文・前衛とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>・B1パネル横728×縦1,030ミリ</li> <li>厚さ5～75ミリ程度</li> <li>重さ5kg以内</li> <li>・課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)</li> <li>・法的規制に触れないこと</li> <li>・吊り紐</li> </ul>
入賞		特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 3点 準特選 6点 奨励賞 5点 入選 規定数	特選 4点 準特選 9点 奨励賞 8点 入選 規定数	特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数	特選 2点 準特選 4点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 8点 準特選 14点 奨励賞 13点 入選 規定数	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。</li> <li>・展示作品は10月9日(月・祝)の午後5時から午後6時までに搬出すること。</li> <li>・所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する。</li> </ul>						

第 61 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(特別出品)	長尾弘子	西野和男	
(招待)	橋本正弘	中川健	岡英彦
	土方るみ子	土井洋子	
(無鑑査)	中西芳雄	日浦猛史	

☆ 洋 画

(特別出品)	佐野比呂志	梶田務	
(招待)	清水亟悞	楠瀬等	露口敏幸
	長尾弘久		
(賛助出品)	岡多美子	柏木雅雄	河田安市寛
	黒崎志郎	後藤田仁一	松川
	岡田守	中辻奈美枝	
(無鑑査)	西川周三	越久高照	
(遺作)	永山隆二		

☆ 写 真

(特別出品)	西條征二	櫛渕魏	
(招待)	増田清次	井上光雄	木田英之雄
	勝西雅夫	武内亨	木笹田敏賢
	三好和義	上野照文	森前浦芳久
	橋本圭祐	安長剛彦	多田晴美
	荒井賢治	林敏彦	井藤光章
	古井謙吉	中野建吉	大藤和健
	増田壽	柳本正	
	船越正文		
(無鑑査)	井上翔典	久保英樹	岩崎英昭
	中川定典	田村泰弘	堀渕完治
	関口つとむ		
(遺作)	藤井梵		

☆ 彫 刻

(特別出品) 河崎良行

(招待)	佐藤隆	藤田邦宏	大津文昭	井下俊作
(贊助出品)	鎌田	岡強	松永勉	
(無鑑査)	上月佳代			

☆ 美術工芸

(特別出品)	山上馨			
(招待)	高橋勇	七條猪三郎	多智花 佐代子	
	松下雄介	松下一慶	森賢一	
	橘恵	犬伏一		
(贊助出品)	村上正典	中川存		
(無鑑査)	森明治			

☆ 書道

(特別出品)	荒井天鶴	新居藍州	上田溪水
(招待)	宮井青雨	長原田聖	西原醒鶴
	成尾莊秀	原田霄月	芝原馬幾美賀
	前川古舟	清水桂史	美長谷美峰
	春藤大耿	中川上虹	三岡間好鴛
	勝藤景流	日下田和	岡山口華勝
	近藤静苑	竹武市久	中尾松春苑
	荒藤井彭美	富坂本本	永浜多清芳
	藤若藤小園	松薄三	田仁山華瑤
	佐島田英乾		能宇山泰鳳
	隅城青蓮		
(贊助出品)	東南光		
(無鑑査)	岩本雅三	林浩一	龜石文苑
(遺作)	高岡晃		

☆ デザイン

(特別出品)	坂本三千一		
(招待)	斎藤繁次	坂野美恵子	
(贊助出品)	福井章		
(無鑑査)	沢口功	斎藤志津子	斎藤剛



# あ と が き

平成18年度は、毎年会場としている県郷土文化会館が耐震工事のため、一年間休館しましたので、当会の二大行事である、放美展は休止し、第15回展は平成19年度に開催することとしましたが、第61回徳島県美術展（県展）は会場を「アスティとくしま」に移して開催いたしました。県展史上初めての会場でしたので、いろいろと困難な面もありましたが、各部の運営委員と度重ねて協議をいたしまして、七部門が一期で同時（10月4日～9日）に展覧して開催することができました。出品数も出品人数も鑑賞者数もほぼ例年どおりでしたので、会場変更の悪い影響はなかったと思っております。鑑賞者からのご意見としては、一回で鑑賞できて良いという意見や、展示数が多くてくたびれる、迷路みたいな展覧会場だったというご意見をいただきました。平成19年度は会場を県郷土文化会館にもどして開催いたしますし、放美展も開催しますので、会員の一層のご協力をお願いいたします。

例年のように各部会長から一年間の各部の動向や会員の消息をいただきました。会員の方では是非掲載したいという事柄がありましたならば、各部会長のところでご相談いただきたいと思います。

年報の表紙は今回は洋画部の担当ということで黒崎志郎さんから原画をご提供いただきました。

最後になりましたが、会員の皆様にはご健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれますようご祈念いたします。どうぞ美術家協会の発展のために会員の皆様のお力ぞえを重ねてお願いいたします。

平成19年3月

県美術家協会事務局

## 美 術 年 報 2007年

---

平成19年3月29日 印刷

平成19年3月31日 発行

編集者 清 水 博  
装幀者 黒 崎 志 郎  
発行人 佐 野 比呂志  
印刷所 原田印刷出版株式会社  
発行所 徳島県美術家協会  
(徳島市名東町1丁目246 清水方)

---